

社長随想

🐱 ~ その二十九 ~ 🐱



経営理念

「創造と奉仕」

平成 28 年 7 月 8 日（金）発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務事務係

社員の皆様、お疲れ様です。

いよいよ、すこやかホールディングスビルの完成です。



《新ロゴ》

株式会社すこやかホールディングス

設計士のデザインネットワークの島田様の監修の下、地上 6 階建ての大変素晴らしいビルが出来上がりました。

ガラス面が多く使われ、見晴らし良く、窓には緑化がほどこされ、熱環境に優しく、フロアも開放感があって、気に入っています。

思いおこせば 33 年前に、うるま市平良川に 10 坪程度の薬局を作った時には想像も出来ませんでした。

これもひとえに、共に歩んでくれた社員の皆様や、すこやか薬局に足を運んでいただいた患者様、薬局関係者の皆様、薬品卸の皆様、そして友人、知人、家族、多くのご縁を頂いた方々のお陰です。

今年、私は還暦を迎えます。

人生の大きな節目の年にこのような本社ビルの完成を見ることは絶大な喜びです。

そして、この人生の 60 年をふり返る時、紆余曲折ではありましたが

“よくここまできたな”と感慨深いものもあります。

“光陰矢の如し”月日の経つのは早いものだといいます。

また、時は過ぎるものではなく積もりゆくものだともいいます。

島根県の^{にま}仁摩サンドミュージアムに1年の時を刻む1トンの砂時計があります。

それをうたった「砂時計の詩」があります。

その砂が音もなく、巨大な容器に積もってゆくさまを見ていると、時は過ぎ去るものではなく、心のうちに、体のうちに、積もりゆくものということ、実感させられるそうです。



“時は過ぎ去るものではなく、心のうちに、体のうちに、積もりゆくもの”

「まさに時は積もりゆくもの！」

私達はその一瞬一瞬の“今”という時を積もり繋いで今日という日がある。

今という時間を、怠惰に、ポーっと過ごせば、もろくも、崩れやすい砂を積むだけでしょう。

しかし、今という時と向き合い、日々精進を求め、困難を肥やしとする砂を積み、それなりの未来が待っているでしょう。

今日という日があるのは社員の皆様が、患者様の心に寄り添い、暖かい思いを伝え、まさに“かゆいところに手が届く”という気配りの賜ものです。

ありがとうございます。

人と人との間（あいだ）と書いて人間と読みます。つまり人は、“他の人とどのような良いご縁を対人関係で結ぶかで、未来が明るくもなり幸福になれると言われてています。”

只今、アドラーの心理学

「嫌われる勇気」「幸せになる勇気」がベストセラーです。

そのテーマは対人関係を語ったものです。

是非、一読を・・・・・・・・・・・・・・・・。なかなか深いよ～。



アルフレッド・アドラー(1870年2月7日 - 1937年5月28日)

オーストリア出身の精神科医、心理学者、社会理論家。

名言(一部)

“自分だけでなく、仲間の利益を大切にすること。受け取るよりも多く、相手に与えること。幸福になる唯一の道である”

“楽観的であれ。過去を悔やむのではなく、未来を不安視するのでもなく、今現在の「ここ」だけを見るのだ”

お疲れ様でした。

代表取締役社長 宮里 敏行



社長随想

～ その二十八 ～



経営理念

「創造と奉仕」

平成 28 年 1 月 8 日（金）発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務事務係



新年 明けましておめでとうございます。

今年の正月は天気も良く、暖かくて神社への参拝客も多く又、露店商の皆様も良い景気だったのではないのでしょうか。

私も今年、還暦（60 歳）を迎えます。

還暦というのは、生まれた時の干支（丙申）に戻ることをいいます。つまりは一旦“リセット”というか“生まれ変わる”というか、まあ、一度立ち止まって人生を振り返ってみてはどうか？という節目の年かもしれません。どちらにしてもとりあえず新しい旅立ちの様なものでしょう。



又、還暦というのは厄年ともいわれております。

この年に“赤いちゃんちゃんこ”や“赤い帽子”をかぶるのは赤ちゃんは純粋で純朴なので“魔”を寄せ付けない力があるそうでこの意味からきているそうです。

さて、私達すこやか薬局グループにも今年は大きな節目となりそうです。今回、国の方から『健康サポート薬局の構築』という指針が示されました。

健康サポート薬局とは、

服薬情報の一元的な把握とそれに基づく薬学的管理、指導、24 時間対応、在宅対応、かかりつけ医をはじめとした医療機関との連携強化

これは超高齢化社会に対応する薬局、薬剤師のあり方を問うた大きな問題です。医療提供者として“セルフメディケーションの提案”，“在宅医療の推進”は当然のことですが、今問われているのは、

私は、医療提供者としての人間力、つまりは人と人とのかかわり方だと思います。相手の立場に立って、考える力、想いを寄せる力まさに

～あなたの喜びが私達の喜びです～ これにつきますでしょう。

私達は今一度、経営理念であります“創造と奉仕”の精神に立ち返り事にあたる必要があります。 そうすれば、どんな荒波も乗り越えることができます。

4 月の診療報酬改定は調剤薬局にとっては厳しいとの声も聞こえて参ります。しかしながら意識を集中させ団結すれば打つ手は無限にあります。

7月 沖縄市登川に地上6階建の新社屋ビルが完成します。

経営者としては大きな喜びです。創業33年目にして、自社ビルを持つ事が出来ます。これもひとえにこれまで支えてくれた社員一人一人そして処方せんを発行して頂いた医療機関の先生方、薬品卸をはじめ多くの関係者のおかげです。有難いことです。感謝です。



床面積合計 503.60 坪 (1664.802 m²)

敷地面積 301.20 坪 (995.705 m²)

デザインコンセプト-1

全社員のシンボルとして、また、顧客が信頼を託せるような企業イメージを体感できる建築であり、地域のランドマークとなる新しいシンボルの創造。

- 先進性を表現した、個性的なデザイン
- 地域のランドマークとして、親しみやすく気品のある建築

デザインコンセプト-2

快適で効率的な業務環境の実現により、やりがいのある、生きがいの持てる職場環境の創造。

- 機能的で快適な執務空間
- フレキシビリティがありレイアウト自由な平面計画
- 安全、管理に配慮した建築計画
- 休憩や気分転換のできるアメニティに配慮した空間構成とインテリア

デザインコンセプト-3

すこやかイルカの「宇宙・自然・人々を癒す」を体現する、地球にやさしいエコロジカルな建築の創造。

- 省エネルギーな方位に配慮した配置計画
- 窓面緑化による熱環境の緩和に配慮したデザイン
- 保守、管理がしやすい設備計画

きる にんべん

申にイをつければ**伸びる**と書きます。

ご縁を頂いた、多くの人とともに伸びて飛躍の年にしたいと思います。

代表取締役 宮里敏行



社長随想

～ その二十七 ～



経営理念

「創造と奉仕」

平成 27 年 7 月 6 日（月）発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課

社員の皆様、お疲れ様です。

この度、5月1日よりすこやか薬局 33 店舗目となる、『すこやか薬局 松島店』がオープンしました。地主との交渉から 7 年の歳月をかけて、本土の大手調剤薬局との競争もあり、様々な困難を乗り越えてやっと完成した薬局です。ですから、その思い入れも強く、高機能で処方せんが無くても気軽に来局でき、健康相談や健康チェックができる、時代の先端をゆく薬局を目指しました。クリーンベンチや将来的には安全キャビネットも設置し、在宅医療・在宅輸液療法といった地域包括ケアの処方薬局として、地域医療の充実に努めたいと思っております。薬局の内装工事関係には宮里祥子副主任、城間賢五君が中心となり多くの関係者の意見を頂きながら、丹精込めて出来上がりました。感染症患者様待合室やキッズコーナー、健康チェックコーナーがあり、待合室もなかなか細かい配慮がなされた造りになっています。社員の皆様も近くを通りかかる時には必見です。



さあ！しかしこれからが大変です。“^{ほとけ}仏作って、^{たましい}魂入れず”ということわざがあります。その言葉は、いちばん肝心なものが抜け落ちていることの例えで、魂の入っていない^{ぶつぞう}仏像は誰も拝まないということです。つまり、ハードの面よりも「魂」というソフトの面が大切ということです。古堅直也管理を中心にスタッフの役割は大きなものがあります。お客様一人ひとりへ温かい想いを伝えていってください。そして、素敵な笑顔を持って。

～あなたの笑顔が私達の喜びです。～

古堅管理の地から出てくる笑顔はなかなか素晴らしい！期待しています。



また、4月29日(水)昭和の日に行われたプレオープンイベントも、古堅管理のお薬講話会を始め、薬局見学会、健康チェック、試飲試食会に92名もの多くのお客様が足を運んでいただき、他の店舗職員も応援に駆けつけて成功に持っていったことは、ここにもすこやかなチームワークを強く感じました。アッパレ！



4月からは新入社員が入職しました。薬剤師は屋良愛、我那覇ももこ、下地彩耶、金城礼尽の4人。事務職員は黒島美智留、下地美華、仲松寿恵、宮里早紀、長濱早紀、前泊友美、中村あゆか7人。皆さんさわやかで若いエネルギーに満ち溢れておりました。これから人生の荒波に立ち向かってゆくので



すが、常にチャレンジして、楽観的にオレに(私に)乗り越えられない壁はない！と強く自分を信じ(信念)、素直な心で挑戦することを忘れずに立ち向かって下さい。

“不可能の反対語は可能ではない、挑戦だ！”米国大リーグ初の黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンの言葉です。若者の特権は“挑戦”です。

“青春とは人生のある時期を言うのではなく心様を言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。その理念と理想を失う時に人は老いる。～サミエル・ウルマン～”

先日、東京は有楽町駅の隣、国際フォーラムの中にある相田みつお記念館に行ってまいりました。何度か行くのですが、やっぱり相田みつおさんの言葉に触れていると心が安らぎますね。私は相田みつおさんが有名になる前から知っておりましたが、やはり本当に良いものは世に出てくるものですね。『一寸千貫』一寸(3.3cm)角の細い柱でも真っ直ぐに立てれば千貫(3.3t)の重みに耐えられるという意味です。つまり、生きる姿勢がしっかりとまっすぐならばどんな苦労や難儀にも耐えられるし、乗り越えられるというものです。つらい時、苦しい時ほど“一寸千貫”。私の大好きな言葉です。

代表取締役 宮里敏行



社長随想

～ その二十六 ～



経営理念
「創造と奉仕」

平成 26 年 11 月 11 日（火）発行
執筆 代表取締役 宮里 敏行
作成 管理部総務課

社員の皆様、お疲れ様です。

平成 26 年 9 月 30 日にすこやか薬局グループは 30 期の決算を終えることができました。

今年は 4 月の診療報酬改定の影響と消費税増税があつて、増収減益の決算となります。

詳しくは 12 月 7 日の全体会議の中で示されることと思います。『企業の寿命はだいたい 30 年ぐらいだ』といわれた時代もありましたが、ここまで来れたのも社員の皆様のおかげです。過ぎてしまえば早いもので、まさに“光陰、矢の如し”で“あっ”という間の 30 年だった様な気がします。

7 月 20 日の 30 周年記念祝賀会は大変感動的でした。これもひとえに社員一人一人が力を合わせてくれたことによるものと思つて感謝しております。そして、来賓の多くの方から、お褒めの言葉を頂き、すこやかグループの暖かい雰囲気とチームワーク、そして活力を発揮できたものと思つます。



そしてみんなが書いてくれた“私達の夢”は本社の応接室に貼られています、ワクワク・ドキドキしますね。必ず実現します。“為せば成る、為さねば成らぬ何事も”

“想いは実現する”とある様に強く想い行動することで体の中の一つ一つの細胞が夢の現実に向かって動き出します。そして、その“信念”こそが自己を成長させ、成功へと導き夢が現実となります。

“信念”という詩があります。私が 23 歳ぐらいの頃から机の下敷きにしていて、くじけそうになった時には、繰返して読んだ詩です。

さあ、30 期の大きな節目を終えて、31 期に突入しました。新たな時代の到来です。

国は急激な少子高齢化による社会保障体制の見直しを迫られています。年金、医療、介護のあり方が問われ、特に医療と介護の制度改革が急がされています。

私達保険調剤薬局に対する期待も大きなものがあります。健康づくり拠点機能や地域包括ケアへの参画、在宅医療、セルフメディケーションの推進、等々……。

時代は大きく変化しようとしています。

私達は“木を見て森を見ず”ではなく、鳥の目で大空から全体の変化をとらえ行動してゆくことが大切だと考えています。31期も又共に頑張りましょう。

さて、来る11月16日は沖縄県の将来を左右する県知事選挙があります。そこで私の見解を述べておきたいと思います。私は宜野湾市野嵩で生まれ育ちました。まさに普天間飛行場の飛行ルートの下です。それはもう毎日の様にヘリコプターやら輸送飛行機が離着陸してゆきますから、電波障害によりテレビは見えなくなるし、その騒音に耳をふさぐこともしょっちゅうでした。ヘリコプターを操縦するパイロットの姿も見えるくらいの近距離飛行です。小さい頃はゴム管で石を放ったものです。ですから実感として普天間飛行場の危険性を感じております。そんな中、2004年にヘリコプターが沖縄国際大学に落ちました。あのときは“ついに落ちたか”と肝を冷やしました。幸い一人の死者もなかったのは奇跡です。私は何よりも優先されるのは、あの世界一危険な普天間飛行場の早い段階での移設、撤去だと思っております。確かに、



辺野古の海を埋め立てるのは忍びないです。しかし、

480haある普天間を160haに縮小し、嘉手納以南の基地1000haと北部訓練場の約4000haが順次返還されます。

嘉手納以南の1000haの基地の返還は沖縄県に大きな経済効果と発展をもたらすものです。

県は2020年の東京オリンピックに向けて、観光基盤整備を進めています。オリンピックが開催された国はその後必ず観光客が増加します。私達沖縄県は那覇空港の滑走路増設や観光客1000万人、観光収入1兆円そして、健康長寿日本一をとり戻し、沖縄メディカルアイランド構想を世界に発信しようとしています。

今、香港、台湾、中国、フィリピン、ベトナム、シンガポール、インド……とアジアの発展はめまぐるしいものがあります。沖縄はアジアに対するゲートウェイとして大きな役割と使命があるのではないのでしょうか。

私は、基地問題に翻弄された19年間に終止符を打って、新たな時代へ歩みを進めるべき時かと思えます。辺野古の海は必ず再生します。自然は変化に強くその生き残り方を知っています。そしていつの日か辺野古基地も返還され、民間空港として北部地域の発展につなげられたらと思えます。そして、その努力はしっかりとしてゆくべきでしょう。今回の知事選では私は“なかいま弘多”現県知事を推薦します。是非ご協力をよろしくお願いいたします。

普天間飛行場返還合意から19年間、そろそろ宜野湾市民の基地という荷物をおろしてあげましょう。



代表取締役 宮里敏行



社長随想

～ その二十五 ～



経営理念

「創造と奉仕」

平成 26 年 6 月 3 日（火）発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課

職員の皆様お疲れ様です。

4 月 26 日に特定施設サービス付き高齢者向け住宅“すこやか森 ヴィラ北谷”が開所式典を終え、5 月 1 日より開所しました。

祝賀会では、北谷町役職員の方々や、沖縄商工会議所 3 号議員（一八会）の方々、そして保険薬局協会の仲間、多くの工事関係者や友人・知人が駆けつけてくれて盛大に催すことが出来ました。

我々、すこやか薬局グループに、そして、すこやか森ヴィラ北谷に寄せる期待をひしひしと感じ、身の引き締まる想いです。

挨拶の中で、大変素晴らしかったのが、施設長の新屋さんでした。彼女は、『手を差し伸べる』『手を添える』『手で支える』『手を当てる』などの“手を添えることの大切さ”を述べ、運営理念の「家族のようなあたたかい手」を感じてもらえる施設にすると語ってくれました。来賓者の皆様から感動の拍手を多くいただきました。

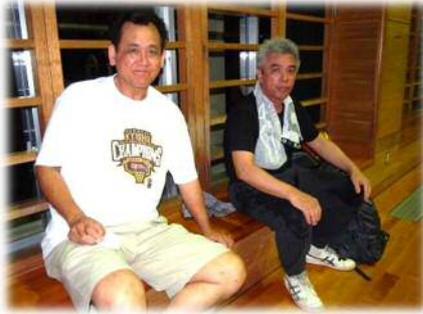
今回のこの事業は宮里常務を筆頭に、すこやか森ヴィラ北谷のスタッフ皆様のチームワークと頑張りでここまで漕ぎ着けてこれました。

しかし、これからが本当の勝負です。家族のようなあたたかい手を発揮する時です。

そして、同一建物にトータルリラクゼーションサロン シュロが砂川愛実さんを店長として、6 月 16 日にオープンします。シュロはヤシ科の樹木で「棕櫚」と書きます。強健な樹木で、職員及び地域の皆様、施設の皆様が、シュロで癒され、リフレッシュし、内なるパワーを呼び覚ましてほしいという意味を込めています。タイ式マッサージ、アロマボディマッサージ、フットマッサージ、フェイシャルエステを中心に施術を提供し、美と健康と癒しをお手伝いするサロンになればと思っております。またシュロを、社員の皆様の福利厚生にも役立てて頂いて、日頃の疲れを少しでも和らげて貰えれば幸いです。

ちなみに、私はタイ式マッサージが大好きです。特に、ゴルフの後のタイ式マッサージは最高に気持ち良くて、究極の世界です。ぜひご体験を・・・(^ ^♪

それから、5月1日にすこやか薬局一般女子バスケットボールチームが誕生致しました。高校の同級生で呉屋健氏が監督としてチームを率います。彼は高校時代、沖縄から初の全日本選手として抜擢され、日本大学に進みました。その後、地元でバスケットボール選手の育成に励み、今年は国体の一般女子監督として采配を振るいます。昨年までは、OMガスチームを沖縄で優勝させ、また、全国2位の実績も持っております。彼とは高校を卒業してからも親睦を深め、すこやか薬局の立ち上がりの時には、土地や家を担保にしてくれて、“死ぬ時は一緒だ”と大きな力を貸してくれた男です。ちなみに、プロバスケットbjリーグの大阪エヴェッサの呉屋貴教君（むやたかのり）の父です。いずれ、私たちがオフィシャルスポンサーを務めている琉球ゴールデンキングスの選手となり、沖縄で活躍してくれることを望んでいるところです。 目指すは全国制覇です！



呉屋健監督と照喜名悟コーチ



すこやか薬局 オリジナルボール



選手の皆さん

◆選手紹介◆



キャプテン
呉屋菜美子選手



西里奈央選手



小室亜希選手



browse 鎌このみ選手



嘉数未咲選手



練習参加者募集中！！

毎週 月・水曜日に練習を行っています。

月曜日 20:00~22:00 場所：北谷小学校

水曜日 19:30~21:30 場所：南風原中学校

希望者は管理部 庶務係までご連絡下さい！

男性もOKです！

社長随想

～ その二十四 ～



経営理念

「創造と奉仕」

平成 25 年 5 月 27 日（月）発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課

久しぶりの執筆です。

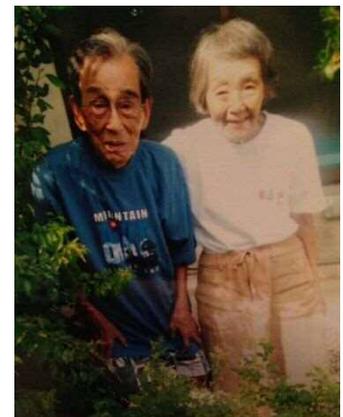
先日、私の師であり、友人であり、親父の様に接して頂いた、平田千種先生（本部町在）が亡くなりました。享年 97 歳、高齢ではありましたが、去年までは車の運転をする程の強靱な肉体と精神の持ち主でした。

しかし、年齢には勝てず、去年 9 月に衝突事故を起こしてしまい、つれあいのおばあちゃん（89 歳）が腰椎圧迫骨折で、入院することになったのです。おばあちゃんも昨年までは、原付バイクで買い物に行ったりする程元気な人だったので、初めての入院生活は相当こたえました。年寄りが入院すると、こうも精神的にも肉体的にも急激に弱っていくものかと驚いた次第です。もちろん、私達家族は全力で支えているつもりですが、まだまだ力は及びません。

年が明け、おばあちゃんも退院し元気をとり戻し、やれやれと思ったところに、おじいちゃん（千種先生）が胸が痛いと言われ、私が北山病院へ連れていきました。病院へ行きながら、「今度は入院かもしれんなあ、まあ、俺は逝く時はじたばたせずにはポックリ逝くからばあさんの事頼むでえ！」などと冗談の一つ二つ飛ばしながら診察に向かいました。案の定、ドクターから『肺炎です。入院して下さい』と言われ「仕方ないなあ、ところで部屋でタバコは吸えますか？」と聞いたら、思いっきり「ダメです」ときつく言われ“しょぼくれたガキ”のようでした。入院の手続きを終え、「それじゃ又ね、養生してや」と声を掛け「わかった、わかった、またね！」と片手を挙げてニコッと笑ったのが最後の彼でした。翌日、体調が急変し、息を引き取りました。97 年間生きてきて、たった 2 日間の入院でした。見事としか言いようがありません。しかし、あとに残されたおばあちゃんの悲しみは大変深いものがありました。長年、子供もなく、二人で生きてきて、その片われが突然いなくなったのですから……。

こんなエピソードがあります。おばあちゃんが入院中、一日外泊し自宅に戻った時、“昨夜はおじいの隣に潜り込んで寝かせてもろうた。おじいちゃん恥ずかしそうにしてたけど、背中擦ってくれた。うれしかったよ。私こんな“おちゃめ”なところがあるんやで。”と病院へ戻る車の中で、ニコニコしながら私に話してくれました。

素晴らしい、可愛らしい女性だと思いました。



平田千種先生と奥様
～ご自宅のお庭にて～



そして、そのおばあちゃんを連れて、おばあちゃんの最後の希望である、“兄弟・姉妹達に会いたい”という想いを実現させるため、私は今、ブラジルにいます。近い親戚は沖縄本島にはおらず、兄弟姉妹は皆ブラジルにおり、両親のお墓もそこにあります。戦前に、新天地を求めて沖縄を離れたブラジル移民家族です。当時の沖縄の暮らしは貧しく、南海の孤島で過酷な労力人口に加え、土地も狭く、自然災害も多い等の自然条件の厳しさもあり、海外へと活路を見出そうと多くの移民が行われました。移民の父と呼ばれる當山久三の“いざ行かん、吾等の家は五大州”と詠ったように、まさに夢とロマンをかけた旅だったようです。しかし、現実は大変な苦勞があったようです。

ブラジルでは兄弟や親せきの方々が多く集まって、温かく迎えてくれました。家族の尊さを感じました。本当に明るくて心温かい方々です。

平田千種先生との出会いは先生が金武診療所に赴任され、私が医薬品卸会社のスズケンの営業マンとして訪問したのがきっかけでした。何故か、お互いの息が合い、太平洋戦争の頃、中国で軍医をしていた頃の話や石油タンカーに乗って船医となり世界をめぐる話、車が大好きでポルシェを飛ばして、スピード違反で警察にしばられた事など、数限りなく愉快で壮快な話を語ってくれました。



そんな中、私が“独立して事業をやりたい”と相談すると“若者の特権は挑戦だ！失敗を恐れるな”と私の心に

～ 愛車のポルシェ ～

熱い炎を燃やし、心強く私の背中を押してくれたのです。

まさに、今の“すこやかホールディングス”があるのも、あの時の決断から始まりました。

そして、この度の平田千種先生のご逝去にあたり“諸行無常”という言葉が脳裏を過りました。人の世も万物も“無常”です。形あるものはすべていずれ消えてゆきます。その一瞬一瞬、変化をしながら消えてゆくのです。だからこそ、次の生命が生まれ引き継がれてゆくのです。そして“無常”だからこそ“今を精一杯生きること”に力を注がなければなりません。そして“無常”の中にも消えないものがあります。それは、魂や精神、そして想いです。私達は、両親や先人の人々から多くの想いを引き継いで“今”があります。“今”というものをあるがままに受け止めて、大切にしていけることが、寛容かと思えます。

すこやかホールディングスも、後につづく人達に“創造と奉仕”の精神が残れば本望です。

今回の旅を様々な形で応援して下さいました社員の皆さまに感謝申し上げます。

平田千種 冥福を祈りながら……

ブラジル サンパウロにて

代表取締役 宮里敏行



～ イグアスの滝 ～



社長随想

🏠 ~ その二十三 ~ 🏠



平成23年9月15日(木)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

皆様、お疲れ様です。

7か月ぶりの社長随想です。7月の北欧視察を終えてまとめたレポートを紹介します。

北欧3ヶ国視察(平成23年7月6日～7月14日)



デンマーク、



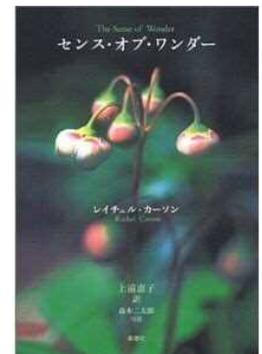
ノルウェー、



スウェーデン

6年ぶりの北欧の旅は、又、新たな発見と感動を与えてくれました。今回は歳をとったせいでしょうか。はたまた、少しだけ成長したのでしょうか。前回とは違う感覚を覚えました。となれば、旅は同じ場所でも行く時期と共にする仲間そして、季節によってこうも味わい深いものになると実感できました。

丁度、旅の途中にclass Aの橋本会長より頂いたレイチェル・カーソンのセンス・オブ・ワンダー＝(神秘さや不思議さに目を見張る感性)という本を読んでおりました。この本は、子供の頃の世界は様々な情緒やゆたかな感受性や直観力という感性がやがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅。私達が自然という力の源泉から遠ざかり、つまらない人工的なものに夢中になっているのではないか？という問いかけの本でした。そして今一度、自分の中のセンス・オブ・ワンダー＝(神秘さや不思議さに目を見張る感性)を取り戻そうということです。



臼井団長がいつも口癖のように“風を感じて下さい”人々の風、社会の風、その土地の風と様々な風を感じて自分自身の風と共鳴したり、何か新しい発見があったりと日本の中では感じ得なかったものがあるはず。とよく言われますが、まさにあの北欧の美しい町並みやフィヨルドや山岳フロム鉄道そして静かなバルト海に代表されるような大自然を目の前にした時の感動は忘れられません。



北欧諸国の大きな特徴はやはり、“高福祉、高負担”。そして、それを支える国民負担税率が5割～7割あることです。

そして多くの国民が自己の自立と尊重を基にこの社会システムに了解し、そして政治・経済にも大きな関心を持っていることです。選挙の投票にしても80%以上とは驚きです。

日本では国政選挙でもせいぜい50%～60%です。社会に対する関心の薄さは悲しいばかりです。

化学者ノーベルを生んだスウェーデンで、さすがだなと感じたことはスウェーデンは実験が好きなお国柄というところですか。

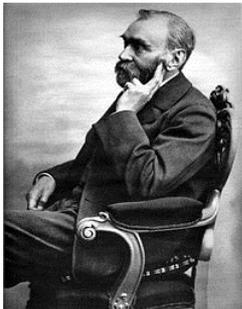
様々な政策をまずはやってみて、都合が悪いところや誤っているところは政策を実行しながら直せばいいのだ！というように非常に柔軟で挑戦的で創造力のある国なのだろうと思いました。この点も大きく日本と違うところでしょう。

また、不思議に思ったのは北欧の介護施設、病院、薬局、行政機関とどこを訪れても先の3月11日におきた東日本震災や原発の話題がでなかったことです。

世界では、今回の大震災を受けて、日本人の我慢強さや団結力、助け合いの精神と行動に感銘を受け驚きと賞賛が送られています。

北欧でも、もちろん承知の事ではあったかもしれませんが、それはもう過去の事で今を“どう生きていくか”ということに大きな焦点があり、常に前を向く姿勢の国民性かもしれません。

今回の旅は若人と語り合い老人とたわむれ、うまい酒を飲み、大自然とふれあう楽しい旅でした。



アルフレッド・ノーベル

1833年10月21日～1896年12月10日(満63歳没)

化学者、実業家 ダイナマイトの発明で知られる

遺言に、遺産を使って賞を作り、科学技術、文学、平和など合計5部門に貢献した人物に賞を贈るように記載されていた。ノーベル本人はこの賞に名はつけていないが、現在この賞は「[ノーベル賞](#)」と呼ばれている。

最終的に[ノーベル財団](#)が設立され、ノーベルの意思は次の次の世紀まで伝えられることになった。



社長随想

🏯 ~ その二十二 ~ 🏯



平成23年2月17日(木)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

皆様、お疲れ様です。

7か月ぶりの社長随想です。昨年、沖縄について考えたレポートを紹介します。

とうしょけん
「島嶼県における経済活動の有利性・不利性」について

島嶼県である我、沖縄県の祖先はその有利性を活かし、海洋王国琉球を築いてきた。中国や東南アジアの国々と緊密に交流し平和で友好的な経済関係を築き貿易中継基地としても大きな役目を果たしてきた歴史があります。



(国章)

琉球王国

琉球王国は12世紀から17世紀にかけて栄えた海洋国家である。17世紀に薩摩藩の勢力下に入ったが、対外的には独立国家として行動した。明治維新を迎え、ひとつの県として、完全に日本に組み込まれた。琉球王国の最盛期は、北は奄美諸島、南は八重山諸島を含む長大な海洋王国であった。ちなみに宮古島から西を先島諸島、そのうちで石垣島から西を八重山諸島という。

島嶼（とうしょ）とは大小さまざまな島のこと。中国語では「島」とは別に小島を意味する「嶼」という言葉があり、これらをつなげて様々な大きさの島を意味する言葉ができた。

昆布の取れない沖縄県で昆布の消費量が全国一なのは貿易中継基地としての大きな名残なのです。

清では昆布は食品としてではなく、薬として扱ったと言われています。大量の昆布が貿易中継基地、琉球に入ってくるようになると琉球王朝料理の食材として使われるようになり、やがて庶民も料理に昆布を多く使うようになったと言われています。

やはり、島嶼県沖縄がその利便性を生かすには、制度の大きな変革が必要です。一国二制度にして、完全に自由貿易国をつくり、沖縄の特殊性を利用して香港並みの輸入関税ゼロ、全島自由貿易地域(F T Z)化や法人税を大幅減税し金融特区、医療特区等を設け企業の進出を促進する構想を立て、沖縄の自由と地方自治を勝ち取りかつての海洋王国を目指してはいかがでしょうか。

今、地方分権、道州制が議論されているところですが、企業経営者を対象とした道州制に関するアンケートでは道州制導入時に沖縄を単独洲とする事について87%が支持を表明し沖縄を他の道州以上の権限を持つ「特別州」とすることにも76%が「当然」と答えています。単独洲の根拠は固有の歴史と文化を背景にした共同体意識です。これも島嶼県、沖縄の大きな特徴です。

島嶼の中でも国境の島“与那国の挑戦”があります。与那国は八重山諸島の中で石垣市と合併を拒否し国境の島という個性を産業形成や人口増加につなげる為に台湾との交流復活を掲げて国際貿易港の指定や定期船運航に道を開く、「国際交流特区」を2005年から国に申請し続けました。台湾との自由往来はそれだけで島の物価高解消にもつながります。船の出入りができればモノが動き、人が動く。知恵も入ってくる。生きた経済が島に生まれます。

高速船が運航できれば日帰り観光も可能です。中国から台湾への観光は100万人ともいわれ、ビジネスを含めると150万人も超えると言われています。そして、GDP世界第2位にのし上がった中国の中で発展著しい企業は台湾の企業らしいのです。“北京語”という同じ言語を使えることが大きな武器なのです。

経済学者の大前研一さんは、台湾はまだまだ経済発展してゆくだろうと予測しております。その台湾と交流が復活し中国との道も開かれれば、非常に面白くなると思います。

又、島嶼県沖縄のポジティブ的特性である固有の生態系、自然環境、独自の伝統文化、歴史、風土を生かし、癒しの空間を提供できる国際観光立県も目指すべきです。国際観光は単に経済活性化に寄与するだけでなく、異文化との相互理解、共生社会を醸成し国際平和に貢献できる平和産業ともいえます。



私は先日、フランス領ニューカレドニアを旅する機会を得ました。小説、森村桂著の「天国にいちばん近い島」の舞台になり、小説もベストセラーになり映画も製作され日本の女性の憧れの島となったところです。

この島には世界で2番目に大きな珊瑚礁で出来たリーフがあり、ユネスコ世界遺産に登録された美しい島です。この島は空にもとけるようなコバルトブルーの青い海、雪のように白い砂浜があり、訪れる者皆にヤシの木が優しい木陰をつくってくれる。夕暮れの夕日は何層ものオレンジ色のカーテンが海を包み、夜は天空一面に星が瞬く。まるで夢の島です。そして、そこは世界各地から時空を乗り越えて穏やかなのんびりした空間と自然に酔いしれる為に人々が訪れます。



しかし、私達沖縄県にもニューカレドニアに負けないコバルトブルーの海洋環境があります。

慶良間諸島に代表される透明度の高い青い海は日本の宝であり地球の財産です。慶良間諸島の島々にそれぞれのオリジナルテーマを設け、自然との調和を優先した宿泊施設や娯楽施設を創り沖縄版ニューカレドニア構想として“時間に追われる生活からの解放”を観光の柱とし日本のみならず中国、東南アジア並びに世界へ国際観光立県としてアピールしてはいかがでしょうか。

ニューカレドニアでは遊覧ヘリコプターで島々を巡りながらジュゴンや海亀がゆったり泳ぐ姿を見かけました。慶良間諸島でもクジラが泳ぐ姿を空から見る事ができたらもっと素晴らしいし感動的だと思います。

次に“癒しの島”沖縄であるならば健康福祉立県として世界的な病院・医療保健センターをつくる。医療特区構想として、抗がん剤など欧米で使用される薬が国内で使えない「ドラッグ・ラグ」の問題を解消し混合診療も一部認める。アジアの高度医療センターとして広く門を開き、日本の最先端医療の拠点としてはどうでしょうか。

また、医療健康分野を連携したメディカルツーリズムの提案や島嶼県沖縄の豊かな自然を生かしたホスピスの実現も良いのではないのでしょうか。ホスピスはがん及びAIDSにより治療が難しくなった患者を対象とし、延命治療ではなく患者の最期の安息に満ちた時間をケアする施設です。島嶼県沖縄は多くの自立できる可能性を秘めています。今回のテーマで沖縄の立つ位置や未来を想像する時、美しい海洋環境、多様な動植物、健康食材、伝統芸能、地理的優位性などを学びました。

そして、島嶼県の経済活動の有利性を強く発揮することで不利性は影をひそめると思います。



社長随想

🏠 ~ その二十一 ~ 🏠



平成22年6月28日(月)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

皆様 お疲れ様です。

いよいよ、「すこやか薬局^{おきせき}沖赤店」の開局(7月1日木曜日)が近付いてきました。三年越しの計画でやっと立ち上がった次第です。特に場所の選定には苦勞しましたが、地元「八三会」^{はちさんかい}の協力もあり現在の場所に落ち着きました。

店舗は1階が待合と受付会計、2階は調剤室と、すこやかにとってはまったく新しい試みです。

しかしながら、あの狭い土地をどうすれば有効に活用出来るかと「ていだの会」をはじめ担当の神谷係長らが設計士との綿密な打ち合わせを行い、店舗のコンセプトを「カフェ」のようなイメージをもったオシャレな薬局(佐藤常務の発案です)」としました。細部までこだわった薬局に仕上がったと思います。

“3人寄れば文殊の知恵”と申しますが、特に投薬カウンターは、ていだの会との飲み会の時に坂本南エリア長が発案してくれました。

後になって思い出したのですが、あの形態は確かアメリカの“フォートン・コンドース”という薬局に近いものがあります。なかなか新しい投薬風景が見られそうです。



奥野聖子管理を中心に沖赤店のスタッフの奮闘を期待しています。

沖赤店の近くには日本調剤さん総合メディカルさんと本土の大手チェーン薬局も開局しております。私達は地元の強みを活かし“小粒でもピリリと辛い”存在感のある薬局を目指しましょう。

ちなみに、7月1日は私の誕生日でもあり、すこやか薬局グループの創業日でもあります。非常に“ゲン”の良い日であり、うまくいくに決まっています。(個人的には天からのプレゼントだと思っています。) 皆さんも是非、一見して下さい。

今年の4月には診療報酬改定がありましたね。改定の大きなポイントは、やはり後発品数量ベース加算でしょうね。私たち、すこやか薬局ではほとんどの店舗が、30%をクリアしているので大分貢献してくれています。

また、調剤基本料の条件設定が変更になったのもいい材料です。しかしながら、新薬創出加算によるメーカーや卸の納入価が非常に厳しくなり薬価差益が出ずこれは大きな痛手です。

現在も登川係長を中心に価格交渉中ですが、前回の様には、なかなかいきそうもありません。

ただ、全体の経営としては皆さんの頑張りのおかげで患者様も増えていきますし、増収・増益を達成できると思っています。

また、意見箱やにこにこレポートから頂く患者様の暖かい励ましの言葉を目にするたびに現場でのスタッフの活躍が思い浮かべられます。そして大きな経営の自信となっております。

今、時代は大きな転換期を迎えています。3年間に4人の総理大臣が変わり、鳩山内閣から菅内閣へと移行しました。政治も経済も迷走を続けています。沖縄は基地問題に翻弄され続けなかなか経済基盤が作れません。国民所得も全国一低く、若年失業率は10%を優に超えています。

私は早く基地問題を解決し、“オリジナルな夢のある島”の実現を強く望んでいます。

私の実家は普天間飛行場の飛行ルートにあって、幼い頃から米軍機の騒音に悩まされてきました。ヘリコプターに至っては操縦士の顔が見えるほどの低空飛行を行っていたのをよく覚えています。



【沖縄と全国の失業率比較】 平成22年4月現在

	沖縄県	全国
完全失業率	8.0%	5.1%
若年者(15~29歳)完全失業率	11.6%	8.3%

【普天間基地】

日本の国自体も大きな問題を抱えています。

経済もGDP（国民総生産）はこれまで世界第2位でしたが、今年中に中国に抜かれます。少子高齢化による労働人口の減少、社会保障費の増大、デフレ、国家財政の危機とこれまでに経験した事のない問題が山積みです。

日本の国債発行額は800兆円でどんどん膨れ上がっています。これは国の借金ですのいずれ誰かが返さなければなりません。私達の次の世代の方々は大変です。

今、ギリシャ危機がテレビや新聞などで報道されていますね。ギリシャではゼネストや警察との市街戦等で暴動が起きています、これは国の借金が膨れ上がり、年金のカットや住民サービスが行き詰った結果、あの様な状態になっているのです。それがヨーロッパ経済、世界経済に影響を与えリーマンショックに次ぐ金融不安をもたらしています。日本もこのままいけばそういう危機がないともいえません。私達一人ひとりが、自分だけ良ければいいとか国とか地域とか家庭とか社会全体に関心を持たなくなった時、大きな危機が訪れるでしょう。

7月11日に参議院選挙があります。社会に参加する権利として”投票“という行為があります。

この機会に是非ゆっくり考えてみてはいかがでしょうか？



さて、夏の賞与も近づいてまいりました。今回はいつになりますかね。お楽しみに！
お疲れ様でした。

平成22年6月21日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

🐱 ~ その二十 ~ 🐱



平成22年1月18日(月)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

新年 明けましておめでとうございます。

さて、2010年(寅年)はどんな年になるのでしょうかね。

中国戦国時代の思想家「韓非(かんぴ)」の言葉に“虎に翼”という言葉があります。これは【勢いのさかんな人に、更に新たな勢いを添えること。】「鬼に金棒」と類義です。

また一方で、酒に飲まれてひどく酔い意識が乱れて悪酔いすることを“虎になる”ともいいますね。

韓非(かんぴ)は中国戦国時代の思想家。『韓非子(かんぴし)』の著者。法家の代表的人物。
韓非子とも呼ばれる。

さてさて、飛躍発展の年とするのか混乱の年とするのか、私たち一人一人の力量が試される年になりそうです。

世の中は今、百年に一度の経済危機といわれています。アメリカ発のリーマン・ショック以来、世界的金融不安に陥っています。先日も栄華を誇ったアラブ首長国連邦のドバイ(世界一の高層ビルがあるところ)で国の借金が返せそうにもないと宣言したのです(ドバイ・ショック)。

これによって世界の銀行が金融の引き締めに入り、ますます世界に金融不安が広がりました。

この一件、私たちの仕事とは関係がないと思われるかもしれませんが、実はすごく関係があるんです。仕事だけではなく。私生活においてもかなり関係があります。

今、日本はデフレ経済に入りました。何故デフレになったかという日本経済は、アメリカやヨーロッパ、中国などへの輸出に大きく依存していました。そのうちの一つである消費大国アメリカが不況になり消費が低下したのです。

全世界的に供給が需要を上回ったのです。

今、1,000円以下のジーンズとかすき家の牛丼とかが安くなっていますよね。いろんな物が安くなって良かったと思っている人もいますが、経済全体からみればデフレは良くありません。

商品を値下げすると企業の利益が細る



企業は従業員の給与を抑えたり、リストラをしたりします



人々は節約して生活を切り詰める



ますます商品が売れなくなる



企業はさらに値下げに動く。この状況を繰り返す悪循環になります。

また、企業は商品があまり売れないので工場の機械や設備の出費を抑え節約する。そうすると設備をつくる企業の業績も悪くなり不振企業が借金を返せなくなる。すると銀行は警戒してお金を貸すのをためらいます。

経済活動が鈍り企業が納める税金も減り、行政にも影響が及ぶようになります。

既に日本のGDP（国内総生産）は540兆円から470兆円と70兆円も減っています。世界第2位の経済大国日本も「風前の灯」です。

デフレスパイラルの構図



今、皆さんのまわりの方々にも就職が困難だったり、以前は多かった季節労働の仕事がなくなったり、派遣切りや内定取り消しにあたりといろいろあるんじゃないかな？

沖縄県は全国一失業率が高く、若年失業率は12%～13%ともいわれているし、所得も全国一低いといわれています。ですからこのデフレ状況は決して良くないのです。この様な状況が続くと患者さんの受診機会も減ります。少しの体調変化等では我慢しようという気になり、より重症化してから受診するというパターンが増えます。

私たちの保険薬局事業は国民医療費32兆円の枠組みの中で行われています。いわゆる税金です。国家予算の92兆円の約1/3なのです。

昨年の企業からの税収は37兆円。残りの55兆円は借金です。そして今、国全体の借金は870兆円ともいわれています。

日本は早くこのデフレスパイラルを克服し脱却しなければ大変なことになります。少子高齢化社会を迎え大きな課題です。

政府の後発医薬品（ジェネリック薬品）使用促進は膨らむ医療費を抑え、患者さんと国保、健保の負担を軽くすることにあります。

私たち、保険薬局はこの様な経済状況や患者さんの経済状態も気にしながら、接していく必要があるのではないのでしょうか？

4月には診療報酬点数改正があります。医療+1.74%。歯科+2.09%。調剤+0.52%のプラス改定とはなっていますが蓋を開けてみないとわかりません。まあ、どの様な状況になろうと『凡事徹底(ぼんじてっい)』が大切です。

凡事徹底とは、当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やるという意味です。

イチローが86年ぶりにシスラーのシーズン通算安打記録を抜いた試合後のインタビューに”今小さな事を多く重ねる事がとんでもないところに行く、ただ一つの道なんだなあというふうに感じています。”と答えていました。

なるほど、”平凡な事を徹底すれば非凡になる”。



通算安打記録、1920年にジョージ・シスラー選手が記録した257本の記録を2004年イチローが更新。
シーズン終了時には262本を記録。

平成22年1月7日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ その十九 ~ 🏠



平成21年9月28日(月)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

ついに民主党政権「鳩山内閣」が発足しました。

まさに劇的な圧勝で衆議院選挙を勝ち取り、自由民主党の戦後55年体制が崩壊したのです。

官僚主導政治や天下り、税金のムダ使い、年金問題や後期高齢者の問題と様々な問題があったと思います。これまでは政権政党の自由民主党は何度も乗り越えてその政権を維持してきました。しかし、今回ばかりはうまくいきませんでした。何故でしょうか？

私はその政権から“民意”という国民の気持ちに気づく感性が薄れ、長くやってきた体制組織が硬直化し時代の変化に対応できなかったからだと思います。

そして、国民の大衆意識とか集団意識というものが大きなマグマとなって今回の想像を絶する選挙の結果となって表れたのです。

私は、ふと思いました。医薬分業も今では分業率が全国55%（沖縄県67.1%）とある程度浸透してきましたが、これは国の政策的な誘導が大きかったと思います。

医療費の抑制や薬づけ医療からの脱却。そして欧米先進国並の分業体制の構築といった国策として、分業が進められてきたのです。

当初、国民の不満は相当ありました。二度手間、一部負担金の増加など、いろいろありました。そして、その不満を少しでも解消する策として門前薬局が生まれたのです。

日本の保険調剤薬局の処方せん取扱量のほとんどは門前薬局が占めています。

私は門前薬局が悪いとは思いませんが、そのあり方が問われてくると思います。

患者サービスを怠り、アメニティーにも気を配らず、コミュニケーション能力や知識の向上にも目を向けず、あたり前に処方せんが流れてくる体制の薬局は必ず淘汰されると思いますし、支持されないでしょう。

私が一番怖いのは“あたりまえ”という感覚です。

今回の政権交代も政府も官僚も「あたりまえにある」というその感覚が組織を硬直化させ、変化に気づかず“民意”からかけ離れ、創造する力を失い政権も失うのです。

医薬分業も門前薬局や薬剤師が“あたりまえ”にあるものとして、捉えるならばいずれ国民の支持は得られなくなると思います。現に、新潟県の大きな病院は院内投薬に戻し、その波紋は地元薬剤師とのあつれきも生んでおります。

医薬分業の中心は患者様にあります。患者様がそのメリットを享受し、本当に喜んでいただけるサービス。私達が患者様のすこやかな人生と健康に何ができるかを常に考え気を配らなければ医薬分業も本当の意味で患者様のものにはならないでしょう。

「ゆでガエル理論」というものがあります。

熱いお湯にカエルを入れると驚いて飛び跳ねる。ところが常温の水に入れ、徐々に熱していくとその水温に慣れていく。そして熱湯になったときには、もはや跳躍する力を失い飛び上がることができずにゆで上がってしまうというのです。

私たちはこのゆで上がったカエルを笑うことはできません。ビジネス社会に生きる私たちも、慣れた環境に浸りすぎて変化に気づかず、変化だと察知できた時点では遅すぎて手が打てなくなってしまうことがよくあります。



今回は“あたりまえ”にあるという怖さと体制が崩壊する時の集団意識のすごさを知りました。

鳩山政権のこれからの手腕に期待！お手並み拝見です。

平成21年9月17日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

～ その十八 ～



平成21年7月3日(金)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

皆様お疲れ様です。

5月1日に「すこやか薬局よみたん店」がオープンしました。平成20年の11月頃に話があり、急ピッチな開局となりました。営業企画部並びにすこやかスタッフの総合力で何とか5月の開局にこぎつけたのでした。

処方元の読谷村立診療所の運営は読谷村であり、行政が行う診療所としては数少ない部類だと思います。当然、行政が運営しておりますので、地域住民との関係も当然深いですし、村民の健康を守る医療提供体制の大きな要となっております。

現在は、小橋川先生と女医の伊藤先生と2診体制で在宅医療やデイサービス、デイケア事業も行い平均70～80人の外来です。

村といっても、なんと人口は3万8,000人強で日本一の村民人口です。陶器などの焼物が盛んで、Kiroroの出身地としても有名な？

ですから、「すこやか薬局よみたん店」でも、地域住民との密着度も深くなるだろうし、村からも特定検診等も意識した在宅医療への参加や行政と一体となった健康情報発信基地として大きな期待が寄せられているところです。



9月には琉大病院前に「すこやか薬局西原店」をオープンさせます。現在改修工事中です。

近隣には、薬剤師会が運営母体の「会営薬局うえはら」と「レキオ薬局」があります。当初、この薬局の設立には薬剤師会からもクレームというか賛否両論がありました。しかし、この薬局のキッカケになったのは、ある、全国展開の大手チェーン薬局が琉大病院前に薬局をつくろうと触手をのばしてきたからなのです。

私達は、張り巡らしていた情報と人脈を使いなんとか開局を阻止できたのです。薬剤師会にも入会していない大きなチェーン薬局が開局していたとしたら、この問題はもっと

大きくなっていたと私は思います。

今は、薬剤師会会長や理事の皆様との面談も終え理解を得られたものと思っております。

私は医療というのは地場産業だと思っています。

地域住民の健康をあずかり、医療提供施設として収益を上げ、雇用を拡大し消費につなげ、地域住民サービスを向上させ、そこから得た利益を税金というかたちで納税し、地元企業としての社会的な責任を果たす役割があると思っております。

『木を見て森を見ず』という言葉があります。“目の前の事ばかりにとらわれていると、変わっていく環境や変化に気づかず取り残されちゃうよ”ということです。

森に気をつかっていたからこそ、「すこやか薬局西原店」があります。



最近、私は琉球・沖縄の歴史に興味をもっています。

もともと歴史は大好きなのですが、何故か自分の住んでいる琉球・沖縄史は掘り下げることはありませんでした。

そこで、ジュニア版“琉球・沖縄史”を買って読んでいます。これは本当に“おすすめ”です。



我が、琉球の祖先はなんとたくましく、自立心に満ち海洋王国として、東南アジアとの大交易時代を築き、“琉球王国ここにあり”といわんばかりの国をつくったのでした。

琉球は中国の皇帝から王国として承認され中国からの“冊封使”を迎え入れます。

これにより組踊りや様々な古典芸能が生まれました。沖縄が独特の文化をもつルーツなのです。それから昆布のとれない沖縄が全国で一番昆布を食べていることを知っていますか？日本と中国との貿易の中継基地として、多くの昆布を中国へ輸出していたからなのです。

それから、“さつまいも”も元々は中国から持ってきた“^{かんしょ}甘藷イモ”が琉球から薩摩（鹿児島県）に伝えられ日本全国へ広められたのです。

琉球王国時代から、琉球処分、ペリー来航、太平洋戦争による地上戦、祖国復帰運動そして基地の島沖縄、あらゆる苦難、苦闘もありながらも明るく元気に笑いVサインするオーバー！オジーは小さくVサイン！。

あらためて、この島の背負ってきた荷物を先人達はしっかりと受け止めて、自立と誇りをもって生きてきたんだなあと思います。

私達も足もとをしっかりとみてゆきたいものです。

池上永一氏著“テンペスト”という小説があります。琉球王国が荒波を乗り越えてゆく人々の本です。わくわくドキドキの本です。おもしろいよ。まずは一読あれ！。ちょうど本屋の店頭にあると思います。



(上 若夏の巻)



(下 花風の巻)

7月5日（日曜日）は（株）薬正堂の25周年記念パーティーです。

思い切りはじけて楽しみましょう。



平成21年6月27日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ その十七 ~ 🏠



平成20年11月19日(水)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

お疲れ様です。さて、世の中は百年に一度の経済、金融危機に直面しているといわれています。アメリカのサブプライムローン（低所得者の住宅ローン）に端を発し、それが証券化商品として世界に飛び出し、世界の銀行や金融機関に信用不安が起これりリーマンブラザーズという大きな投資銀行が破綻し、AIG生命保険やビッグスリーと呼ばれる自動車産業のフォード、ゼネラルモーターズ、クライスラーが倒産の恐れがあるとしてアメリカ政府が公的資金の注入を発表しました。そうしなければ多くの失業者があふれ、人々が混迷と不安を抱えて生きることになります。金融、つまりお金は私達の体という血液です。心臓から送り出される血液の流れが悪くなると、あちこちの臓器が機能不全に陥るのです。

世界の経済はグローバル化して何らかの関係をもちながら成り立っています。特に資源のない日本は貿易立国です。アメリカや中国に技術や商品売って成り立ってきました。世界のトヨタがそうですね。

世界の経済が悪くなると物が売れなくなり、企業は業績が悪くなりリストラや生産調整で難を逃れようとします。すると多くの失業者や中小企業の倒産等があらわれ経済不況が忍び寄るのです。

沖縄でも少なからず影響がありました。瀬底島に建設中の大型ホテルの工事が途中で止まったり、韓国や中国のお金の価値が下がり韓国人の観光客は激減です。沖縄は日本の経済が落ち込めば観光収入や公共事業に大きな影響があるので大変です。今度、政府から定額給付金が出されますが消費を上げてなんとか経済を維持しようという考えの表れです。世界はまさに激動、激変の真っ只中です。

そんな中、この度のクオール株式会社（資本金8億1,460万円、薬局228店舗、社員1,900名（2008年9月末現在）。大阪へラクレス上場）との業務・資本提携は、激動する医療環境とスピードの速い医療制度改革の変化に対応し、“選ばれる薬局”、“質の高い薬局”、“多様性のある薬局”として、すこやか薬局が多くの沖縄県民に支持されそして人々の健康に少しでもお役立ちができ、私達はその仕事と行動にやりがいの持てる職場にする為の大きなステップだと思っております。



クオール株式会社の中村社長は今年4月の全体会議でも講演していただいたのでほとんどの社員が知っていると思います。

中村社長は中国の満州に生まれ、早くに父親を亡くされ母親と兄弟4人で凄まじい戦争体験の後帰国。その経験とバイタリティーでクオール株式会社を築き上げてきた方です。

そして、同じく凄まじい戦争体験をした沖縄には熱い思い入れをお持ちであり、沖縄の持つ自然と風土と人々のおもてなしに熱く感銘したそうです。

そして、『すこやか薬局が沖縄で一番になり、素晴らしい調剤薬局をつくる為に、私達クオール株式会社のもっている経営資源がお役に立てるなら、どうぞ遠慮なさらずにお使いください。』と言って下さり、今回の業務・資本提携となりました。



クオール株式会社
代表取締役社長 中村 勝 氏



私と中村社長は保険薬局協会の理事会で会ったり、時々にはゴルフをしたり酒を酌み交わしたりしながら明日の調剤薬局のあり方であるとか医療業界の変化や厚生行政の困惑といったことをよく話し合います。少子高齢化社会においてこの医療提供体制は大きな課題です。

私達、薬局、薬剤師も大きく変化を求められ、人々のニーズにどう答えられるか正念場のような気がします。いずれにしても、私達一人一人ができることは、どのような世相にあったとしても「今、目の前の仕事や出来事に心をつくして取り組む」ことです。そうすれば必ず道は開けます。

今回の業務・資本提携で不安感をもった職員もいたかもしれませんが、どうぞ安心して下さい。これまでのすこやか薬局の理念はなんら変わることはありません。

そして、“選ばれる薬局” “質の高い薬局” “多様性のある薬局” を目指して共に歩んでゆきましょう。

平成20年11月17日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

～ その十六 ～



平成20年8月22日(金)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



皆様、お疲れ様です。

超久しぶりの執筆です。なんと今年初めてではありませんか？自分でもビックリと共に反省です。

さてさて、大変うれしいニュースがありました。

この度、すこやか薬局（具志川店）応需の知念小児科院長、知念正雄先生が、第60回保健文化賞を受賞されました。

この賞は、福祉を含む保健衛生の分野で優れた業績を挙げた6人の個人と10の団体に贈られる賞で、大変価値の高い大きな賞なのです。



(知念小児科院長 知念正雄先生)

保健文化賞とは

昭和25年、戦後の保健衛生の思想・施設が悪化しているなか、日本の保健衛生の向上に取り組む人々に感謝の意を捧げる意味で第一生命保険相互会社が創設し、厚生労働省他の後援を得て毎年実施しています。毎年秋に贈呈式を行い、受賞者は翌日皇居に参内し、天皇・皇后両陛下に拝謁を賜っています。時代の流れとともに課題も変化し、現在では保健医療、地域保険、生活環境、高齢者福祉など、多岐の分野にわたっています。

知念先生とは知念小児科医院を開業して4年目ぐらいからの付き合いで、かれこれ30年ぐらいになります。いち早く医薬分業を取り入れ、すこやか薬局の立ち上げにも大きな力を与えてくれた方です。

その頃から沖縄県の小児保健活動や離島検診、また中部病院との病診連携による入院児のケアや小児科医のカンファレンスなど、とても積極的に小児医療に携わってきました。そして、『全国からはしか（麻疹）をなくすんだ』という強い思いにかられ、“はしかゼロプロジェクト”を立ち上げ、今では、はしかゼロプロジェクト委員会が日本各地で活発に活動を続けている次第です。私も時々、はしかゼロプロジェクトの事務局として参加しお手伝いをさせてもらっています。

日本のはしか患者は毎年十万人～二十万人も発生し、亡くなったり後遺症が残ったりするケースもあり、米国などの先進国では予防接種を徹底し、年間数十例しかないのが現状です。日本人が海外へビジネスや旅行に行った時に“はしか”を感染させてしまう事から日本は「はしかの輸出国」ともいわれています。

はしかはワクチンの予防接種によってその発生を抑えることが出来るのです。

知念先生は1999年から2001年にかけて、はしかが全国で流行し、沖縄県でも多数の患者が発生し9名の乳幼児が死亡したことにひどく心を痛め、『ワクチン接種が高ければ、小さな命を救えたかもしれないのに・・・』と小児科医として自分自身を深く見つめるきっかけとなった様です。ある時先生が『私は小児科医としてあの9名の命を失ったことは“不作為の責任”を感じる』と話したことがありました。

私は“不作為の責任”の意味さえ分からずに先生にその意味を問いました。

先生は『自分自身はそのはしかによる9名の小児の命が失われたことに直接かかわってはいないけれど、その対策と対応は知っていた。小児科医としてそれを見過ごしたことに大きな責任を感じる。そして私の生きている間に沖縄県のはしかをゼロにしてみせる』と私に告げたのです。そして、仲間を集め全国にはしかゼロプロジェクトを呼びかけたのです。

今では全国の小児科医がはしか対策にのりだし、我が沖縄においては“Kiroro”の二人がTVではしか撲滅キャンペーンではしかの予防接種を呼びかけています。みんなもTVでみたことあるんじゃないかな？



今回の知念先生の受賞は、賞のことなど意識せず只、小児科医・知念正雄としての“不作為の責任”に対する先生の熱い想いがまわりの人々を感動させ、その業績を評価し今回の受賞につながったと思います。先生はコメントで『沖縄の子供たちのため、大勢の仲間が協力してくれたおかげ。みんなに与えられた賞だ。』と語っており本当に感動的です。

今回のことで、私も考えさせられました。それは、“不作為の責任”という意味です。

私達、すこやか薬局として、医療提供施設として、薬剤師として、経営をする者としての責任とは何だろうということです。

私達は、一人一人の患者をお迎えして精一杯の安心と満足と安らぎを与える仕事をする責任がありますが、もっと深く大きな“不作為の責任”があるのだとふと想いました。以前、随想に書いた、インドの貧しい人々を救い、貧しい人々と共に生きたマザー・テレサが、記者団に『愛の対局にあるものは何ですか？』と尋ねたところ誰一人としてその問いに答えられなかったそうです。

そして、その答えは“無関心”であるとマザー・テレサが答えると、記者団はその場に立ちつくして、衝撃を受けたそうです。

確かに無関心では、不作為の責任は感じられないと思います。愛の深さがその責任と使命を感じるものなのでしょう。

私達も今一度その責任と使命に目覚めよう。

平成20年8月13日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ その十五 ~ 🏠



経営理念
「創造と奉仕」

平成19年12月25日(火)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

皆様、お疲れ様です。

いよいよ、2007年も終わりを迎えようとしています。

ついこの間、新年会を終えたと思ったらもう年の瀬です。早いものですね。

“光陰矢のごとし”とはこのことです。

今年には会社も有限会社から株式会社へ移行し、決算期も12月から9月に変更したので年末の棚卸がない分皆様にとっては、少し心の余裕があるのではないかと思います。そして、来年2008年1月4日より(株)すこやかホールディングスという純粋持株会社を設立します。(株)薬正堂の持株がそのまま移行します。

(株)すこやかホールディングスの設立の目的は、激しく変化しグローバル化する薬業界への対応と社内の業務の充実と効率化を図ることが大きな目的でもありますが、他社とのM&Aや株式交換といったことによる業務提携等や新規事業の発掘や立ち上げをよりやり易くする為の手段でもあります。身近なところでは、(株)スズケン沖縄と沖縄薬品(株)がひとつになったことや(株)琉薬が(株)アルフレッサホールディングスに統合された様に会社対会社の合併や統合はあらゆる産業で行われています。社会の変化に対応し生き残る一つの術かもしれません。

我社もこの時代の波を受けて(株)すこやかホールディングスを立ち上げ、来年4月の厳しく予想される薬価改定や診療報酬改定、及びジェネリック等の問題に対応してゆきたいと思います。これによって、皆様の立場や環境が特段変わることはありません。会社の仕組みと体制が変わると理解していればよろしいかと思います。

今年も、様々な事件や事故そして政治経済も混沌とした年でした。安部政権が突如福田政権に変わり、防衛庁問題が浮上し、石油の値上がりによる物価の高騰。又、サブプライムローン問題による世界経済の沈滞。そして信じられないのが先日長崎佐世保で起きた銃の乱射事件です。ここは本当に日本なのかと思った程でした。

さて、今年を象徴する文字として“偽”が発表されました。耐震偽装問題に始まり、食品偽装問題、年金問題等・・・老舗の吉兆や伊勢の赤福まんじゅう、北海道の白い恋人といった、みな伝統のある企業ばかりです。どうしてこうなっちゃうんですかねえ。

相田みつをさんの詩に“人の為とかいて偽^{いつわ}りと読むんだねえ”という言葉があります。とっても深い意味を感じました。

つまりは、愛を届けることとか、想いを届けること、私たちの企業としての使命を届けることはこちら側からの一方通行でなければならないということです。よく言いま

すよね、“女房子供の為働いている”とか“あなたの為に・・・したのに”とか。これにはみんな人の為にやったという、偽りが混ざるんですね。本当は“女房子供の為に働きたかった”“あたなの為に・・・をしてあげたかった”という自分の心の意志と行動でやったことなのですね。つまりは自分が自分で自立し自分の心が決めたことなのです。母親が子供に無償の愛を捧げる様に愛や思いというものは霧の中を歩いていたらいつのまにか湿った服に気づくように静かで穏やかに届けられるものなのでしょう。

私は企業の文化や風土が企業の成長を決定づけるものと思っています。いい土壌をつくれれば企業は成長する。逆に成長しない、あるいは退歩しているということは企業文化が腐っているんです。病んだ組織は例えばお客様をどうでもいいと思ったり、やる気をなくしたり、不平不満、愚痴ばかりが出てきます。

私達は今一度、経営理念である“創造と奉仕”の精神を確認し、魂のある企業活動と患者様に”喜んで“、“選んでいただけるかかりつけ薬局”を目指し一人一人がさらなる向上を祈るものであります。

今年も一年間お疲れ様でした。

来年は大きなチャレンジの年になりそうです。共に歩んでゆきましょう。

平成19年12月22日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ その十四 ~ 🏠



平成19年9月7日(金)発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

皆様、おはようございます。

今朝は、しばらく続いた咳も治まり、静かな朝を東京の竹芝栈橋の近くにあるホテルで迎えております。外の海は波も静かで窓からは東京湾やレインボーブリッジ、フジテレビ、有明コロシアムといったお台場が見渡せる私のお気に入りのホテルです。それでいて値段も高くなく東京のホテルにしては安いほうです。ちなみに「ホテルアジュール竹芝」といいます。

しかし、今回の咳が続いたのにはまいりました。もう20日以上も続いているのです。内科の下地克佳先生によると咳喘息ではないかとのことでした。夜中に咳込んで寝ることができず、明け方に又、発作的に咳込むといった状態で、横になるとキツイので椅子に座って寝ることもあった程でした。私は体力には自信があったし特に呼吸器系は強いと思っていたのでショックでした。

喘息発作で呼吸困難になり人が亡くなることがありますが、本当に苦しいだろうなあと思いました。大げさですが、私も“死にがた〜”でした。

さて、今回の出張は『薬局未来塾』の立ち上げ会でした。(株)ファークスの島田光明社長、(株)フォーラルの松村達社長、経営コンサルタントの駒形さんと私、他3人での集まりでした。先の3人は年齢が一緒でいつも薬局の将来像はどうあるべきだろうか、より良い社員はどう育てていった方が良いのかと、熱く語り合う仲間です。そんな人達が語り合うだけではなく、行動を起こそうと奮起したのが『薬局未来塾』です。

大きな組織にするつもりはありませんが、“小粒でもピリリと辛い”そんな存在感のある塾にしていくつもりです。どうぞご期待あれ！

沖縄の地は離島県でどうしても情報が遅れがちです。そして、のんびりした性格と“なんくるないさ”の精神で動きも遅れがちなんですね。しかし、この医療業界はめまぐるしく展開し変化しスピードを求めています。

9月30日に薬正堂が日本保険薬局協会専務理事の漆畑稔先生をお招きし講演会を行います。彼は厚生労働省にも深く人脈を持ち、薬業界きっての情報をお持ちの方です。来年4月の診療報酬改定や現在、政府が進めている政策や薬局の将来像についても語ってくれるはずです。今、薬局・薬剤師の環境がどのようなものなのか？私達はその立場と位置を確かめそれぞれの役割を見つめなおせれば。との思いで、漆畑先生をお招きし多くの皆様に聞いて頂こうと思っております。



漆畑 稔 先生

今年、薬正堂は23年目になりました。
23という数字は私のラッキーナンバーです。中学校のマラソン大会2年連続で23位、
競馬で万馬券を当てたのも2-3でしたし、とにかく23という数字には縁が深いのです。
皆さんにもあるでしょう。好きな数字とかラッキーナンバーとかね？。
人生初めての“死ぬ思い”もしましたが今年は何となくワクワクする年なのです。
目の前を小さな漁船がゆったりと過ぎてゆきます。
本当に静かで穏やかな朝です。

平成19年8月31日
代表取締役 宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ その十三 ~ 🏠



平成 19 年 6 月 13 日 (水) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



先日のゴールデンウィークに3泊4日で韓国（ソウル）に行ってみりました。

北谷町の大城皮膚科クリニックの大城院長らとの旅でした。

大城先生とは年齢が一緒ということもあり結構気が合い、時々一緒に旅行する仲です。

出発の日、那覇空港で小禄店の阿波根りか主任とバッタリ会いビックリしました。彼女達も韓国への旅でしたがツアーは別でした。ちなみに彼女達はグルメの旅だったそうです。私達は、市内観光と国境沿いにある北朝鮮が掘ったという「第3トンネル」を見学しました。

しかし、韓国はやっぱり焼肉とキムチ、グルメの国ですね。私はキムチがあまり得意な方ではないのでちょっと苦労したかな。しかし、最終日あたりはよく食べていたかな？。一番美味しかったのは“サムゲタン”というスープのような料理です。若鶏の中にもち米やいろいろな具が入っていて最高でした。

白菜のキムチ



サムゲタン



冬のソナタの「チェ・ジウ」のように韓国の女性は、色が白くて美人が多かった。後から、韓国の女性はプチ整形といって、美容整形手術をすると聞いてビックリです。それから、韓国の男性は太った人があまり見かけられませんでした。それはたぶん、18 歳になると徴兵制度で2年間の軍隊で厳しい訓練を受けなければならないからでしょうか。

先頃、韓国の男性俳優がこの徴兵をのがれているのが明るみになり大変なバッシングを受けていましたね。

韓国は常に北朝鮮という金正日率いる独裁国家を意識し国境38度線を境に今でも休戦協定で互いが均衡を保っている状態です。決して戦争が終った訳ではないのです。ガイドによると離散家族といって多くの人々が親族であるにもかかわらず北と南に離れて暮らさなければならない。北朝鮮の暮らしはそれはひどいもので、“飢え”と“寒さ”に加えて物資の無さは大変なものです。

社長随想

🏠 ~ その十二 ~ 🏠



平成 19 年 3 月 8 日 (木) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

久しぶりの執筆です。

先日、日本保険薬局協会(NPhA)のトップセミナーということで、オーストラリアのシドニーとメルボルンの病院や薬局を視察してまいりました。メルボルンは先日全豪オープンテニスが開催された町で、女子の“シャラポア”が「暑さに負けた」と語った程、日中は陽射しが強く、紫外線は日本の7倍もあるそうです。この様なことから皮膚癌の発生率は世界一です。

シドニーもメルボルンも緑が多く、とてもきれいな町です。とくにシドニーでのナイトクルージングではオペラハウスや街の灯りがキラキラと輝き、それはそれは、ロマンティックで新婚旅行にはお勧めです。

さて、今回同行したメンバーは日本の医薬分業をリードしてきた経営者の皆様でありました。

日本保険薬局協会(NPhA)の会長、今川美明氏を始め、18名の人数で海を渡ったのです。

“旅は道づれ世は情け”、“袖すりあうも多少の縁”とはよく言ったもので、この7日間の旅は私達に深い親交をもたらし、お互いの距離感を縮め、まるで子供の頃に帰ったようにはしゃぎまわり、そして語り合いました。

そして私はふとしたことを思い出しました。それは、ある新聞記者が松下幸之助であるとか本田総一郎であるとか、歴代の名だたる企業経営者を取材してまわったときの話です。この記者は経営者の性格のある共通点に気づいたのです。

そして、それをある語録でまとめたのが“明るく、元気で、遊び好き、欲が深くて、いい加減”です。

そのまま聞けば、ちょっといやらしく聞こえるかもしれませんが、“明るく元気”というのは、いつも前向きにチャレンジ精神にあふれているということです。

“遊び好き”とは車のハンドルにも遊びがある様に、常に心に余裕を持っているということです。

“欲が深い”というのは、小さな欲ではなくて、大欲。つまり、自分自身だけの欲ではなく、世の中を良くするためにはどうすればいいか。人を喜ばせるには何が必要か。と常に考えることです。

最近も4人の脱北家族が青森沖の方で発見され、ニュースで報じられていましたね。命を懸けて死ぬ覚悟で国を逃げてくる訳です。私達には想像もつかない世界があつた国では繰り返されているのです。

朝鮮半島の歴史は我国、日本とも大きな関わりを持っています。日清、日露戦争に勝利した日本は朝鮮半島から中国の満洲に到るまであの大陸に大きな統治権をもち、国を治めていました。しかし、1920年8月15日に太平洋戦争に敗れ終戦を迎えました。日本にとっての終戦記念日8月15日は朝鮮半島にとっては開放記念日なんです。そして、ロシアや中国を後ろ盾とする共産主義勢力とアメリカを後ろ盾とする資本主義勢力がぶつかり戦争がはじまりひとつの民族が戦う悲しい歴史があり、休戦、分断という形で国が2つに分かれてしまったのです。

終戦を迎え、混乱の中にあつた日本経済はこの1952年（昭和27年）に始まつた朝鮮戦争によって、アメリカ軍の補給基地としてめまぐるしく発展してゆきます。これがいわゆる朝鮮特需といわれるものです。

日本が早い時期に高度経済成長を成し遂げてきたのもこの特需のおかげかもしれません。いずれにしても、日本と韓国の交流が盛んになったのは最近のことです。あの日韓合同ワールドカップの成功により、“冬のソナタ”や“チャングムの誓い”のようなTVや映画・文化や経済の交流も盛んになりました。それまでは反日感情が強く、なかなかうまくいきませんでした。

今回の旅は近代の日本歴史を勉強するいい機会となりました。そして、国の指導者によってこうも翻弄される国民達、ひとつの民族が戦わねばならない悲しい事実。私達は戦後の日本に生まれ、何不自由なく暮らし、平和の中にあつて平和ボケともいわれますが、先の大戦で一番の戦禍を受けたウチナーンチュ（沖縄人）として、この歴史を受け止めつつも、戦争のない平和な世界がありますように祈るばかりです。

先頃、韓国と北朝鮮に試験的ではありますが二本の線路がしかれ汽車が走りました。あの国がいつか悲願の民族統一がなされることを祈ります。

平成19年6月11日
代表取締役 宮里 敏行



最後に“いい加減”になりますが、これには2つの意味があります。一つは、少々失敗しても気にしないことです。「なんくるないさ！！」と開き直すこと。覚悟を決めることです。そしてもう一つは、暑くもなく冷たくもなく、いい湯加減といわれるようなバランスの事です。

ギターのコ弦でも引張リすぎても、たるみすぎてもいい音色はでません。この人と人、物事のバランス感覚です。

今回のメンバーはまさにこの語録にあう様な人達で、やはりひとつの時代を引張ってきた人達だと思いました。

そして、私達がこの旅先で語ったことは、日本の医薬分業の大きな転換期の話題でした。この歴史の浅い日本の医薬分業が本当の意味で国民に求められ、必要とされる形態とはどうあるべきかと。

私はこれまでにアメリカ、欧州、北欧、イタリア、そして今回オーストラリアとそれぞれの病院や薬局、老人施設等を視察してきましたが、ひとつ言えるのはそこで働く人々が全て奉仕の精神で働き、そして、大きな社会的な使命感を持っているということです。医療や人の生命にかかわる仕事をするものとしての根本ともいえることです。そして、他の人に感謝される喜びに大きな誇りと自信を持って働いているのです。

日本の保険薬局も医療法に医療提供施設として明記され、いよいよ薬剤師も医療人とはどうあるべきかを問われる時代がきました。薬学部6年制も昨年4月からスタートし、臨床薬学も含め国が期待する薬剤師、国民が期待する保険薬局及び薬剤師。私達は大きな課題をつきつけられながら新しい時代を築いていかなければなりません。

最後にダーウィンの“種の起源”の中にありますように

『常に強いもの、賢いものだけが生き残るのではない。

常にその変化に順応し変化に耐えるものだけが生き残るのである。』

平成19年3月5日



社長随想

🏠 ~ その十一 ~ 🏠



平成 18 年 10 月 11 日 (水) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

この秋に安部新内閣が発足いたしました。

小泉内閣は、構造改革の名のもとに戦後 55 年の体制を大きく変えてきました。安部内閣はどのような内閣を目指してゆくのでしょうか？

安部総理大臣は 1954 年 (昭和 29 年) 生まれ 51 歳と、初めて戦後生まれの総理大臣の誕生です。ちなみに私は 1956 年 (昭和 31 年) の生まれですので、2 歳しか違わないのです。

同世代の総理大臣ということもあって、早速、安部総理の著書“美しい国へ”を買って読むことにいたしました。

安部総理は常に“闘う政治家”でありたいと願っている。“闘う政治家”とはここ一番、国家のため、国民のためとあらば批評を恐れず行動する政治家であり“闘わない政治家”とは、あなたの言うことは正しいと同調はするものの、決して批判の矢面に立とうとしない政治家のことだと言っています。つまりは、大局に生きて行動するということです。

さて、日本はやっとデフレ経済から抜け出し、景気の方も上向いてゆくだろうと言われていますが、数々の難題を抱えているのも事実です。

中国や韓国との外交問題や北朝鮮の核や拉致の問題や、更には教育基本法の改正やゆとり教育がもたらした弊害等です。

日本青少年研究所が日本、米国、中国の高校生を対象に“自分の国に対して、誇りを持っているか？”という問いに対して日本は 50.9% 米国は 70.9% 中国は 79.4% で、日本は 3 カ国中で最も低く、日本国に誇りを持っている若者が半分くらいしかいない、更には“若い時は、将来を思い悩むより、その時を大いに楽しむべきだ”と考えている高校生が米国の 39.7% に対して日本は 50.7% もいたそうです。

若者が夢を持ってずに未来を信じなくなれば、社会は活力を失い、秩序は乱れてゆきます。しかしこれは若者だけの責任ではありません。私たち大人にも大きな責任があると思います。

活力というものは、“自分がこうなりたい”という自己の実現を求めるところから湧いてくるものです。



インドの貧しい人々を救い、貧しい人々と共に生きたマザー・テレサは、ある記者団に“愛の対局にあるものは何ですか？”と尋ねたところ誰一人としてその問いに答えられなかったそうです。

そして、その答えは“無関心”であるとマザー・テレサが答えると、記者団はその場に立ちつくして、衝撃を受けたそうです。誰にでも、自分だけよければいいやという想いは少なからずあると思いますが、その心を小さくして、“関心”を持つことの大切さをおっしゃっているのだらうと思います。

家庭を社会を国を良くしてゆくということは“関心”を持ってゆくこと、そして私たちひとりひとりが自分のこと、家族のこと、患者さまのこと、地域のこと、身のまわりに起こる様々なことに関心をもつことが、愛を深めてゆき、愛につながってゆくことでしょう。

今晩は十五夜で夜空に大きな満月です。月のやわらかい明りに誘われて書きだしました。マザー・テレサの愛もこの月の明りの様でしょう。

“美しい国日本へ”
安部新内閣のお手並み拝見です。



中秋の名月より
平成18年10月6日 午前3時



社長随想

🏠 ~ その十 ~ 🏠



平成 18 年 8 月 2 日 (水) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



又々、いい話がありました。
先日の「台風 3 号」襲来の時の話です。
7 月 8 日土曜日のお昼の 2 時か 3 時頃、大伴クリニックの奥様より、少々困惑した状態で電話がありました。外の大きな大伴クリニックの電照看板が割れて、今にもプラスチックの破片が飛び散りそうで、人に当りはしないか? と心配で心配で…と。しかもすでに何枚かは飛び散り、車を傷つけてしまっているし、丁度その現場も見ているので、それこそ“どうしたらよいか”とすぐる思いで電話をよこしたのです。
当然、看板屋さんにも電話をしたが連絡が取れず、医院には院長しか男手はなく、診療中でもあった訳です。
電話をもらった私もちょっと手が離せない状態であり、当日お休みを取っていた総務課の神谷君に様子を見に行ってもらおう事にしました。

大きな看板でもあり、何人か人は集まったのですが、自分達ではどうする事も出来ない状態でした。思案したあげく、神谷君が機転を利かして警察と消防に連絡を取り、消防隊が駆けつけてくれて、プラスチックを割り砕き、看板をロープで固定し、この危険を回避したのです。

そして、その日の晩に奥様からお礼の電話をもらいました。「神谷さんのおかげで助かりました。神谷さんは事が落ち着き、他の人達が帰って行く中で、最後の最後まで見届けてくれて、私にとってはとても心強く、感謝でいっぱいでした。そして、私達は本当に皆様のおかげでいろいろな方々に支えられて生きているんだなとつくづく思いました。」とおっしゃっておりました。
私も…“うまくやってくれたな”とうれしく思っておりました。
翌々日の月曜日の朝礼で「神谷君、土曜日はご苦労さんでした」と軽く労をねぎらう程度で終わっていたのですが、それから 2 週間も過ぎた頃、奥様は本社までわざわざ訪ねてこられて、その時のお礼と改めて神谷君への感謝を伝えに来られたのです。返ってこちらの方が、恐縮してしまいました。



そして、『絵を2点程、差しあげたい』とまで申し出たのです。(奥様は、沖展にも出品する程の画家でも有り、その価値は私も良く知っております。)
奥様は、最後まで見届けてくれたその行為にとっても感謝し、感動したそうです。
そして、いろいろな方々に支えられて生きているのを改めて感じる事が出来ました。
ありがとうございますと・・・。

今回の事で私は思いました。
最後まで見届けるとは、どういう事なのだろうか。
そして、“それぞれの最後ってあるのだろうか”と思いました。
たとえば、事が落ち着いたところで帰って行った人達もそれぞれ「もう大丈夫だ」と思ったところが最後かもしれない。また、消防と連絡がとれたところで最後の人もいれば、消防が到着した時が最後の人も、プラスチックが割られロープをしばり終えたところが最後の人も、その後様子を見て奥様が落ち着いたところを確認したところが最後の人も・・・。
それぞれ自分自身の最後ってあるけれど、『最後まで見届ける』というのは、自分の最後ではなくて、“相手の最後に共鳴すること”なんだなあと思いました。
だから、あんなにも感動し、感謝していただけたんだと又一つ、大きな勉強になりました。そして、“最後まで見届ける”感性を身につけたいものですね！

神谷君、良い仕事をしてくれました。

ありがとうございます。



2006. 7. 26 午前 4 時 50 分



社長随想

🏠 ~ その九 ~ 🏠



平成 18 年 6 月 19 日 (月) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

ウィーン・ローマを訪ねて

最初に訪れた国、オーストリアの首都ウィーンは静かな町の印象でした。やはり、ウィーン少年合唱団やモーツァルトに代表される様に音楽の町です。

今年はモーツァルトの生誕 250 年ということもあって、町にはモーツァルトの肖像画が至るところにあり、さまざまなイベントも催されているようです。



最初にオーストリア薬局協会では、薬剤はすべてが薬剤師によって扱われるものであり、調剤においても、テクニシャンと呼ばれる職業はないとのことでした。薬剤師の全てが薬局協会に所属、登録し、一人の薬剤師が経営できるのはひとつの薬局のみで、人口 5500 人に 1 薬局で、しかも薬局間の距離の制限もありました。

次に訪れたローマにおいても同様に、薬剤師の経営できるのはひとつの薬局だけです。やはりイタリア薬剤師協会を中心として、薬の管理、コントロールをしているようです。

(北欧やベネルクス三国では、薬局のチェーン化やテクニシャンと呼ばれる調剤補助者が存在しました。)



そして、多くの薬局は何代もその家族によって世襲されているようです。

日本やアメリカの様な薬局間の競争はなく、ある程度統制された、社会的使命感の中で存在しているし、薬剤師になるということは、明確な意思と薬剤師という誇りにかけて、業務を行なう者であるということを感じました。

薬剤師への道を歩むときの最初の意志と動機が、

日本と大きな違いかもしれません。そして、教会や修道院を中心に根ざして発展してきた医療や薬学が、その基礎を作ったのではないのでしょうか。

今回、オーストリア薬局協会・イタリア薬剤師協会を訪れた私たちは、その暖かいおもてなしと丁寧な説明に感動しました。



それにしても、驚きはローマの歴史です。古代ローマの遺跡の数々、コロッセオに神殿、どこを掘っても遺跡にぶつかり、地下鉄等は造れないとのことでした。紀元前にこんなにも栄えた文化があったとは本当に驚きです。そして、なんとといっても世界一小さな国（総面積44ヘクタールの）ヴァチカン市国で、世界最大の魂の王国、ローマ教皇を首長とする9億5千万人の

カトリック教徒の総本山です。

“ペテロの墓の上に教会を建てよう”というイエスキリストの約束に基づいて建てられた、サン・ピエトロ大聖堂は人類の友情や自由、尊敬、武装解除、愛、そして道徳や市民としての進歩について語り続けるとあります。

ルネッサンス芸術に代表される、システリーナ礼拝堂のミケランジェロの描いた天井壁画は見事です。見るものの心を引き付けます。全てが、物語であふれています。



今回の旅で強く感じたことは、人間の持っている叡智の素晴らしさです。そして、オーストリアやイタリアの薬局教会の皆様や訪問した薬局や老人ホームの方々の笑顔で暖かく接してくれるあの姿勢にはいつもながらに心が豊かになります。日本むかし話ではないけれど、『♪ いいなあ いいなあ 人間っていいな♪～』というフレーズが聞こえてくるようです。世界中の多くの人々と触れ合うことによってこの地球が狭く思えたぶんだけ、私のハートは広くなった気がします。

“旅は道づれ世は情け。袖すりあうも多少の縁” 皆様に感謝です。



平成 18 年 6 月
有限会社 薬正堂
宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ そのハ ~ 🏠



平成 18 年 4 月 7 日 (金) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

平成 18 年度の「薬正堂 全体会議」を終え、又、新たな挑戦の始まりです。

今月には、名護『大北店』、南風原『新川店』が開局しました。

沖縄県の高度医療の中心となる医療機関の南部医療センター こども医療センターの処方せんの取扱いが中心となる新川店の役割は、弊社においては南部地区の「核」となる薬局となり、その使命と役割は大きなものがあります。

今年度の診療報酬改定は、薬価改定と共に医療界、薬業界に与えるインパクトは大変大きなものがあります。これまでの医療改革の中でも、歴史に残るぐらいのターニングポイントといわれています。

キーワードは“医療提供者側の理屈より、患者が真に求め選抜できる医療への本転換です。” 多様化する患者様のニーズにどう答えるか、まさに、私達の経営理念である“創造と奉仕”『あらゆるよりよいサービスを創造し、奉仕の精神で提供する』に立ち返らねばと思い到るところです。

さてこの度、伊波孝路君が晴れて琉大医学部に合格しました。“アップレ！”です。彼は長崎大学薬学部を卒業し、すこやか薬局の“ジプシー”パート社員として、ほとんどの店舗をまわされてきたと思います。当初から医学部へ行きたいとの思いも聞いてはいましたが、働きながら勉強を続けることは並大抵な事ではありません。年齢的にも立場的にも親のスネをかじる訳にもいかず、食い扶持だけは何とか確保しつつ、まわりからの“無理じゃないの”とか“薬剤師の資格も持っているのに何で今さら…”とか数々の非難と批判の雨 あられの中“医者になりたい”という“信念”と志の高さに敬服いたしました。

これまでの 4 年間の経験はあなたにとって、良い医者になるための肥やしだったと思うし、必要必善だったと思います。

あらためて、“アップレ！”とエールを送りたいと思います。

そして、社員の皆様にも“信念”という詩を送りたいと思います。



社長随想

🏠 ~ その七 ~ 🏠



平成 18 年 1 月 27 日 (金) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



今年、最初の執筆となります。

早いもので、もう 1 月も終えようとしております。

時が過ぎるのは早いものですね。子供の頃、あんなに長かった一日や一週間や一年が、年をとるにつれ“アッ”という間に感じられます。時間というものは皆、平等に与えられているのに、その感じ方によって短くもなり長くもなる様です。

恋人を待っている時間は長いけれど、一緒に過ごしている時間は短いように…！

さて、今世間を騒がしている『ライブドア問題』いわゆる“ホリエモン”ですが、皆さんはどう感じておられますでしょうか？

彼が弱冠 3 4 才の若さで、7,000 億とも 8,000 億ともいわれる資産をつくり、数々の成功体験をうちたて、社会や若者に大きなインパクトを与え、挑戦してゆく事のすばらしさや、やれば可能性があるという事を世間に知らしめた意義は大きなものがあったと思います。

しかし、今回のこの事件ですぐ私の頭をよぎったのは、“仏像つくって、魂をいれず”という言葉でした。いくらいい形の仏像を作っても、そこに仏像の持っている暖かさや優しさや何事も受け止めて包んでゆく包容力という魂がなければダメだという事です。つまりは、いくら大きな会社、大きな資産という箱物を作っても、そこに会社の理念という魂がなければダメという事です。

そして、その理念とは会社の為だけあるのでは無くて、お客様や社員やその家族、つまりは関わっているまわりの人々の為にあるのです。

『仕事』とは、人に仕える事と書きます。

『働く』とは、“はたを楽にする”とも言います。

すべて、自己中心ではないのです。ホリエさんの“お金で買えないものはない”とか言った拝金主義の自己中心的な彼の心が今回の事件の根っこにある様に想えます。



© 1999 www.daj.ne.jp

私達 薬正堂は“創造と奉仕”という経営理念に立ち返り、改めて私達の社会的な使命とは何なのか？社会に存在する意義は何なのか？を問い、すこやか薬局が世間の人々から愛され、又、必要とされる薬局づくりを目指したいと思います。

今年は、4月に名護の「大北店」と南風原の「新川店」がOPENします。新川店は、高度機能病院、医療センターの処方を中心となります。そして、沖縄県の医薬分業も成熟期を迎えました。ますます“魂をいれる作業”が必要となりました。



平成 18 年 1 月
有限会社 薬正堂
代表 宮里 敏行



社長随想

🏠 ~ その六 ~ 🏠



平成 17 年 11 月 30 日 (水) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



「と」と「の」の違い

「と」を「の」に変えるだけでおもしろいことがおこる。対立の概念は調和の概念になる。

たとえば“すこやか薬局とお客様”という言葉と“すこやか薬局のお客様、お客様のすこやか薬局”という言葉을比べていただきたい。

「と」のほうは向きあっている冷たい関係を感じるが、「の」のほうは寄り添う暖かさを感じる。“すこやか薬局のお客様、お客様のすこやか薬局”の言葉の中に“早く良くなって下さい。” “お大事に”と病気のお客様のことを思い、真心を込めて薬をお渡しし、御相談に応じている姿勢が感じられる。

すべてのものを「と」を「の」に置き換えて考えていきたい、会社を考える時も「私と会社」と考えず「私の会社」「会社の私」とぜひ考えてもらいたいと思う。その方が、心豊かになれ、ひとつの目標に向かって全員で事に当たれるからである。

このように考えていくと、私達の企業理念も「と」の精神から「の」の精神に変えてゆくことにあると思う。

「の」には、寄り添う暖かさや、真心、調和、願い、祈り、愛がある。

【真夜中の本との出会い】より

※「と」と「の」の違い

上記掲載文章は、3～4年程前の全体会議で、社員の皆さんにお話しした「と」と「の」の違いです。あらためて読みかえして見ると“なるほどなあ”と再認識しました。



社長随想

🏠 ~ その五 ~ 🏠



平成 17 年 10 月 11 日 (火) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

10 月 1 日 (土曜日) より、すこやか薬局西里店がオープンしました。

宮古徳州会病院を退職され、今回「くらはし整形外科クリニック」を立ち上げた倉橋豊 Dr (46 歳、神奈川県出身) とタッグを組んでの開業となった訳です。

倉橋 Dr は、海が好きで、スポーツマンで、宮古トライアスロンにも参加する強者です。宮古島のことを好きで好きでたまらず、若い頃から宮古島を訪れては、友人知人に“宝島がある！宝島がある！”と語っていたそうです。

そんな倉橋 Dr とお会いしたのは、4 月の終わり頃です。(株) ユニテックの福崎社長からの御紹介でした。

正直言って、整形外科という診療は処方せんの発行率は 50%~60% 程度です。さらに処方内容も単略化されていますので、調剤薬局にとっては、けして“うまみ”のある話ではないのです。しかし、倉橋 Dr の宮古島を愛する思いや最新の設備を揃えた新しい形での医療の提供をしたいという強い情熱が私達すこやか薬局の開局の一つの要因となりました。

また、私の父は宮古島出身なので宮古島には多くの親類・縁者がおり、今回のすこやか薬局西里店の開局を大変喜んでくれました。

私の父は、幼い頃に両親を亡くし、17 歳で沖縄本島へ出て 50 歳という若さで短い生涯を終えました。私も来年は丁度満 50 歳を迎えます。50 歳という大きな節目を迎える年に宮古島にすこやか薬局を開局できるのは、父の故郷に対する情念の想いと不思議な”導きの縁“というものを感じずにはられません。

また、宮古島はまだまだ医薬分業は浸透しておりません。しかし、時代とともに医薬分業はさけては通れないものと私は信じております。

宮古島の人々に私達すこやか薬局の『**あなたの笑顔が私達のよろこびです**』という想いを伝えることが私達、薬正堂の大きな使命と考えております。

管理薬剤師の牧野さんをはじめ仲村さん、荷川取さんのご奮闘を期待しています。また、本島にいる皆さんもしっかり応援してあげてください。



社長随想

🏠 ~ その 四 ~ 🏠



平成 17 年 9 月 21 日 (水) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

先日、9月12日(日)10:00より開催した、管理薬剤師会議に30分だけ参加させていただきました。日曜日にもかかわらず、皆が集まって会議をしていただけることは、本当に有り難い事ですし頭が下がる思いです。

この管理薬剤師会議は薬正堂にとって大きな意味をもっております。

財政構造改革の中、来年4月には医療制度改革の抜本改革が行われると叫ばれています。

今、国の財政は約84兆円の支出に対して約44兆円を税収入でまかない、あとの約40兆円は国債という借金です。この借金が今や計約748兆円にふくらみ国民一人あたりにすると、約645万円の借金とのことです。そこで、収入と支出の調整(プライマリーバランス)をすべく、国と地方の三位一体(①国庫支出金を減らす。②税源を地方に移譲する。③地方交付税を見直す。)の改革や医療制度改革、公共事業の削減と様々な財政構造改革の手法がほどこされているのです。

私達、保険調剤薬局の業界においても調剤報酬が約4兆円という市場の広がりを見せ、大きな改革の的になっていることは事実です。

そのような医療環境のなか私達は「患者さんに選ばれる薬局づくり」「かゆいところに手の届く気配りのできる薬局づくり」をめざし薬剤師の質の向上と組織の対応力を高めていくには、この管理薬剤師会議が我々薬正堂の大きな要(かなめ)ともいえるでしょう。

ひとつ言えることは、医療は統制経済(政府、行政から様々な制約や規制を受ける経済構造)です。

薬剤師として精一杯何ができるかを考え調剤薬局としての使命を果たせれば、来たるこの厳しい医療環境においても乗り越えられるはずです。

改めて、管理薬剤師の皆様、本当にご苦労様です。

～感謝をこめて～



社長随想

🏮 ~ その三 ~ 🏮



平成 17 年 9 月 1 日 (木) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



夏休みも終わり、今日から2学期が始まりました。
子供たちは新学期を迎えて、ワクワク・ドキドキしながらもしばらくは睡魔との闘いではないでしょうか。

さて、今回は来る9月3日(土曜日)に行われるコザしん経営者友の会(具志川支部)主催「エイサーの夕べ」のご案内です。

私達の取引銀行に「コザ信用金庫 具志川支店」があります。コザ信用金庫にはコザ信経営者友の会(略:経友会)というものがあり、それは21の事業所の経営者が日頃、模合やゴルフコンペを行ったり、経営を語り合ったりと親交を深めている集まりです。私も薬正堂の代表として、又、昨年までは経友会の会長として活動してまいりました。

この私達の主催するエイサーの夕べには沖縄県を代表する「平敷屋エイサー」と「屋慶名エイサー」が参加します。

「平敷屋エイサー」は念仏エイサーとも呼ばれ、黒装束に身をつつみ静の中にも神秘性があり鳥肌が立つ程感動します。

また、「屋慶名エイサー」は絢爛豪華な衣装で一糸乱れぬ躍動感と男性的な強さと誇り、こだわりをもったエイサーです。

当日は、ビールや牛汁、沖縄料理のイカ汁にヒージャー汁(ヤギ汁)を用意しています。すこやか薬局のメンバーには無料にて提供します。特にヒージャー汁は精力満点の料理ですよ。県外の方は是非ご賞味ください。

詳しい内容は、チラシを参照してください。



ヤギ汁



平敷屋エイサー

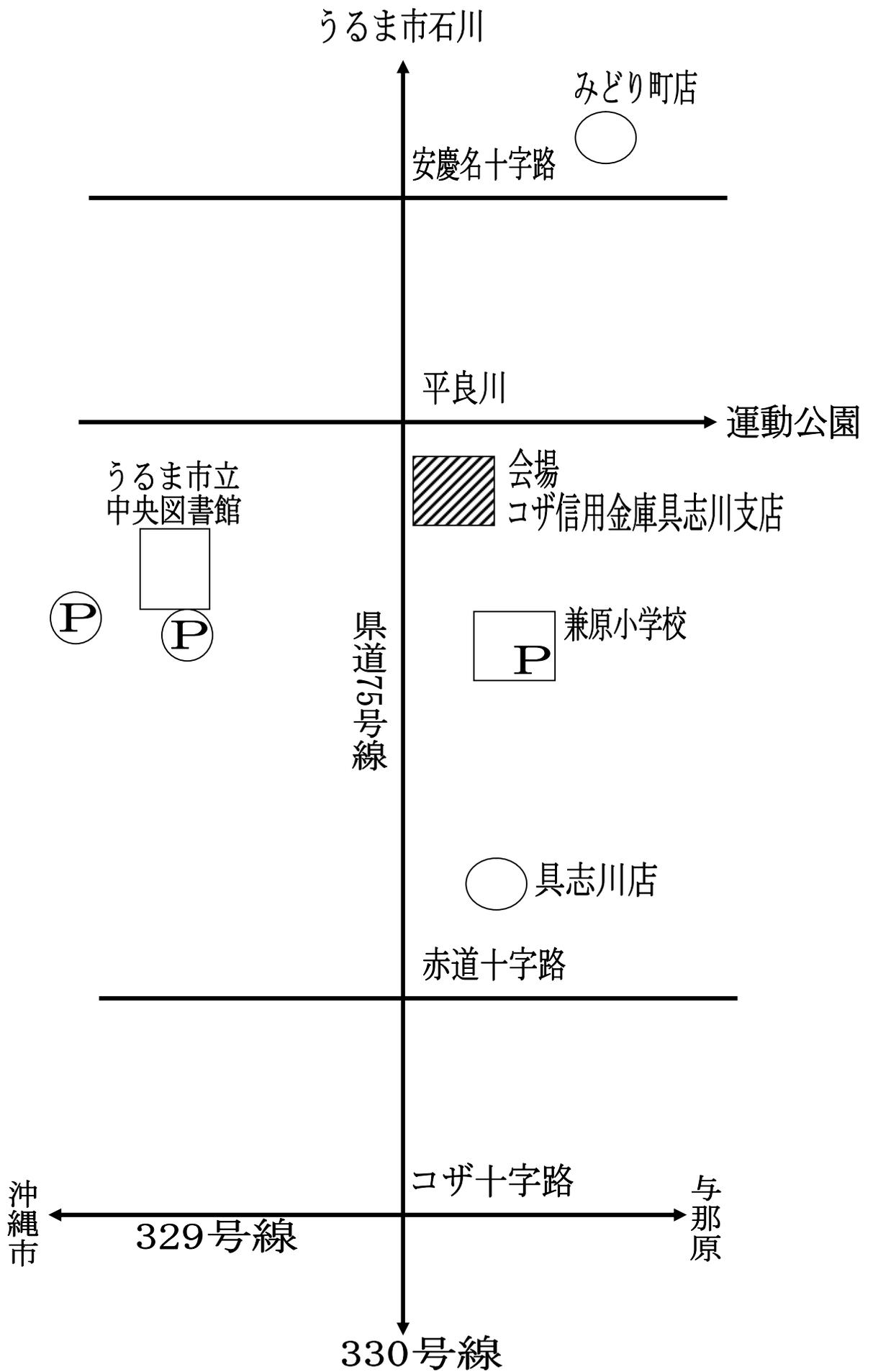


屋慶名エイサー



クラウンコトラ





社長随想

～ その二 ～



平成 17 年 8 月 22 日 (月) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係



皆さん、お疲れ様です。暑さはまだまだ続きますね。夏バテに気をつけて……。さて、今回は、遅くなりましたが先日「北欧研修」に行ったときのレポートを紹介したいと思います。

2005. 8. 22

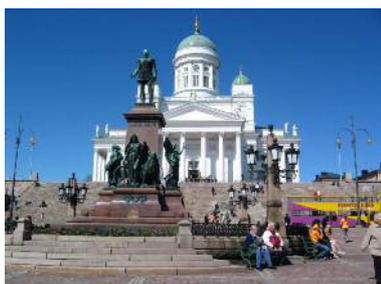
北欧の風をうけて

2005年5月12日(木)沖縄の梅雨空を後に、飛び立つ！約2週間近くの旅の始まりだ。途中、福岡での所用を終え、5月14日(土)に東京へ入る。その夜は、昔の友人と久しぶりの一杯となった。出発は翌15日(日)の午前9時集合となっていた。宿泊ホテルから東京駅までは徒歩5分となっていたがなんと、20分以上かかってしまった。

前日の酒がたたり、頭がクラクラするかなりの二日酔いだ。しかも、午前7時30分発成田エクスプレスに乗り遅れてしまった。

次の発車は午前8時発。しかも満席！しまった！間に合わない。前回の信経会のベネルクス三国の視察研修の初日に遅刻してしまったことが頭をよぎる。同じ失敗を二度はできぬ。駅員に聞いた。“電車とタクシーどっちが早い？”駅員には“電車だと思いますよ”と言われたが、ここは第六感。買った切符を返してタクシーに乗り込む。なんと、午前8時30分に到着した。あとで考えたが、電車には待ち時間があるが、タクシーにはないのだ！納得した。しかし、2万円の出費は痛かった。まあ何とか間に合って良かった。面目は保てて、ホット一息。何食わぬ顔をしている私であった。

さあ、気を取り直して北欧視察旅行の始まりだ。コペンハーゲン空港を經由して、フィンランドの首都ヘルシンキへ着いた。飛行機から見える風景は緑の平原がどこまでも続いていた。ヘルシンキでは、この夏(8月)に世界陸上が行われる。この街並みもテレビで放映されると思うので、しっかりと脳裏に刻み込もうと思う。なつかしく思えるだろうし、楽しみも増えるというものだ。



さて、フィンランド薬局協会の会長インカさんより話を聞いてビックリしたのは、フィンランドは若年性糖尿病患者が世界一多いということである。原因として遺伝や食生活といった様々な要因があげられているが、患者数はかなり多いということであった。もちろん、大人の生活習慣病対策も大きな課題であるとのこと。やはりここでも、薬剤師は健康維持の第一線にたつ大きな使命があると述べていた。



ヘルシンキからスウェーデンの首都ストックホルムまでは、シリヤラインという 13 時間かけての船旅となった。バルト海は静かで潮の香りはなく、まるで大きな湖のようだった。船から見る島々の風景は、それは素晴らしいものだった。



ストックホルムでは、介護福祉施設を見学させてもらったが、高福祉国家というだけあって、入居者の尊厳が中心にあるらしく、高齢者の考え方が尊重され、施設には慣れ親しんだ家具や絵画、ペットまで持ち込み可能とは驚きであった。

また、女性の社会参画も進んでおり、国会議員の約四割が女性だそうだ。女性ならではの政策が育児や介護、環境といったところにみられた。「ゆりかごから墓場」ではなく「胎内から墓場まで」だそうである。ちなみに、日本の女性国会議員は一割にも満たないが、超少子高齢化を迎える日本においてここにも大きな課題がある様にも思えた。

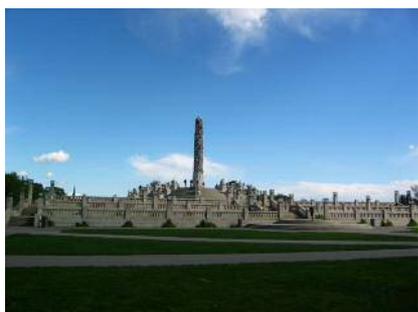


今回のフィンランド、スウェーデン、ノルウェーの北欧視察研修は大変有意義なものであった。フィンランドの薬局はある程度規制の中での薬局経営があり、スウェーデンは国の直営企業による運営。ノルウェーにおいては、規制緩和によりドイツやイギリスの大手外資によるチェーン薬局の展開で成り立っている。それぞれに経営主体や運営の方法はいろいろあるけれど、皆さんが口をそろえて言うのはやはり、その地域の生活者の健康を守る為。そして、患者様に信頼され安心と安全とより良いサービスを構築してゆくことだと。

まったく、わが日本においても同じことである。まさに『地球はひとつ』だと感じずにはいられない。

研修で親身になってレクチャーして頂いた、薬剤師協会の方々や忙しい中、時間をさいて薬局の説明や介護福祉施設の概要をお話しして下さった職員の方々の心温かく接して下さるあの姿勢には“感動”すら覚えた。本当に“人間っていいなあ”と思う。そして、人と人が民族と民族が争うことが“うそ”のように思える。北欧社会の支え合いの精神はみごとなものである。

やはり、旅をすると、その土地のことが自分にとって、より身近なものになり関心が深まりそこでの思い出が心に残る。“地球も狭いなあ。ひとつだなあ”と思える分だけ自分の心は広くなった様な気がする。



平成 17 年 6 月
有限会社 薬正堂
宮里 敏行



社長随想

～ その一 ～

創刊号

平成 17 年 8 月 22 日 (月) 発行

執筆 代表取締役 宮里 敏行

作成 管理部総務課庶務係

ふと“随想”を書いて、みんなに伝えたいと思いました。随想というのは、“折にふれて想うことや感じること”らしいです。

普段、私が想ったことや感じたこと、そして身近な出来事や人生を振り返った時の照れ笑いを思いのままに書いてみたいと思います。言ってみれば、これは私のひとり言のようなものです。どうぞ、“暇”な時にかかるく目を通して頂ければ十分です。

何故、これを思い立ったか考えてみました。

最近、広報担当委員長（私）としては、ラジオやミニ講演など外で話をする事が多くなりました。そこで、「外もいいけど、“根っこ”は内だよなあ……。そうだ！外ではしゃべって、内では書こう」と思いました。それで、随想ということになったのです。

但し、私は非常に筆不精で、いつまでに書くとか、何回書くという誓約になりますとプレッシャーで筆も進みませんので、「神出鬼没」ということで、始めにお断りを申し上げます。

私はいつも朝の午前 4 時 30 分～午前 5 時頃に夢ともなく“あっ、これやろう”とか“こうすれば問題が片付く”といった“ひらめき”が起こります。聞いてみると、みなさん大体がそうらしいですね。

朝は頭の疲れもとれ、β波から安らぎのα波になり頭の中が空っぽの状態になるようで、そこにひらめきという直感が働きやすくなるそうです。

「早起きは三文の得」とはこういうことかもしれませんね。

今日 8 月 19 日は、旧盆のウークイ！です。

あちら（あの世）の人も、こちら（現世）の人も酒を酌み交わし、踊り踊ってひとつの空間になる夜ですね。

それでは、また……。

2005. 8. 19 午前 6 時 30 分

